

単元5 第1章



場面別の支援技術

この單元について

金森克浩
(日本福祉大学 教授)

この講義は、ATA研修 単元5 第1章「場面別の支援技術 この單元について」です。

担当は、日本福祉大学 教授 金森克浩 先生です。

講師紹介 金森 克浩



■ 専門

特別支援教育

肢体不自由教育

アシスティブテクノロジー

■ 特別支援教育において

ICT活用を有効に活用する

ための研究をしている



■ 金森 克浩
日本福祉大学 教授



2

この単元を担当する金森克浩先生をご紹介します。

金森先生は、日本福祉大学教授で「特別支援教育」「肢体不自由教育」「アシスティブテクノロジー」を専門としています。

また、特別支援教育において、ICT活用を有効に活用するための研究をされています。

単元5 「場面別の支援技術」の構成



場面別の支援技術

- 5-2. 学習場面での支援技術
- 5-3. 就労場面での支援技術
- 5-4. 日常生活場面での支援技術



3

単元5「場面別の支援技術」は、以下の3章で構成されます。

- 5-2. 学習場面での支援技術
- 5-3. 就労場面での支援技術
- 5-4. 日常生活場面での支援技術

それぞれの章で学ぶことを見ていきましょう。

5-2. 学習場面での支援技術



■ 学習目標

- ▶ 学習場面での支援技術についての知識を得る

■ 学習のゴール

- ▶ 合理的配慮としての支援技術の活用について説明できるようになる
- ▶ さまざまな学習場面での支援技術について知識を得て、検討する力を付ける

4

5-2. 学習場面での支援技術 の学習目標は、
学習場面での支援技術についての知識を得ること、
です。

学習のゴールは、
合理的配慮としての支援技術の活用について説明できるようになること、
さまざまな学習場面での支援技術について知識を得て、検討する力を
付けること、
です。

5-2. 学習場面での支援技術



- この章を学習するにあたってのポイント
 - ▶ 障害のある幼児・児童・生徒・学生が学習するにあたって、検討すべき課題と支援技術の関連を知る
- この章で学習すること
 - ▶ 特別支援教育における支援技術の位置付けの理解と合理的配慮と基礎的環境整備について解説する
 - ▶ 学びの場面別でどのようなことが行われているかを学び、検討する力を付ける

5

5-2. 学習場面での支援技術 を学習するにあたってのポイントは、障害のある幼児・児童・生徒・学生が学習するにあたって、検討すべき課題と支援技術の関連を知ること、です。

5-2. 学習場面での支援技術 で学習することは、特別支援教育における支援技術の位置付けの理解と合理的配慮と基礎的環境整備について解説すること、学びの場面別でどのようなことが行われているかを学び、検討する力を付けること、です。

5-3. 就労場面での支援技術



■ 学習目標

- ▶ 就労場面での支援技術についての知識を得る

■ 学習のゴール

- ▶ 障害のある人が就労する上で支援技術がどのような役割を果たすか説明できるようになる
- ▶ さまざまな就労場面での支援技術について知識を得て、検討する力を付ける

6

5-3. 就労場面での支援技術 の学習目標は、
就労場面での支援技術についての知識を得ること、
です。

学習のゴールは、
障害のある人が就労する上で支援技術がどのような役割を果たすか説明できるようになること、
さまざまな就労場面での支援技術について知識を得て、検討する力を付けること、
です。

5-3. 就労場面での支援技術



- この章を学習するにあたってのポイント
 - ▶ 障害のある人が就労するにあたって、検討すべき課題と支援技術の関連を知る
- この章で学習すること
 - ▶ 障害のある人の就労とそれに関する情報を把握する
 - ▶ 就労支援機器についての知識を得る
 - ▶ ケーススタディを通して支援機器活用について検討する力を付ける

7

5-3. 就労場面での支援技術 を学習するにあたってのポイントは、障害のある人が学習するにあたって、検討すべき課題と支援技術の関連を知ること、です。

5-3. 就労場面での支援技術 で学習することは、障害のある人の就労とそれに関する情報を把握すること、就労支援機器についての知識を得ること、ケーススタディを通して支援機器活用について検討する力を付けること、です。

5-4. 日常生活場面での支援技術



■ 学習目標

- ▶ 日常生活場面での支援技術についての知識を得る

■ 学習のゴール

- ▶ 障害のある人が日常生活を送る上で支援技術がどのような役割を果たすか説明できるようになる
- ▶ さまざまな日常生活場面での支援技術について知識を得て、検討する力を付ける

8

5-4. 日常生活場面での支援技術 の学習目標は、日常生活場面での支援技術についての知識を得ること、です。

学習のゴールは、障害のある人が日常生活を送る上で支援技術がどのような役割を果たすか説明できるようになること、さまざまな日常生活場面での支援技術について知識を得て、検討する力を付けること、です。

5-4. 日常生活場面での支援技術



- この章を学習するにあたってのポイント
 - ▶ 障害のある人が日常生活を送るにあたって、検討すべき課題と支援技術の関連を知る
- この章で学習すること
 - ▶ 支援を受けるという視点から、自立するという視点に変える上で支援技術の果たす役割を知る
 - ▶ 日常生活に役に立つ支援技術を学ぶ
 - ▶ ケーススタディを通して支援機器活用について検討する力を付ける

9

5-4. 日常生活場面での支援技術 を学習するにあたってのポイントは、
 障害のある人が日常生活を送るにあたって、検討すべき課題と支援技術の関連を知ること、
 です。

5-4. 日常生活場面での支援技術 で学習することは、
 支援を受けるという視点から、自立するという視点に変える上で支援技術の果たす役割を知ること、
 日常生活に役に立つ支援技術を学ぶこと、
 ケーススタディを通して支援機器活用について検討する力を付けること、
 です。

単元5の構成



場面別の支援技術

- 5-2. 学習場面での支援技術
- 5-3. 就労場面での支援技術
- 5-4. 日常生活場面での支援技術



それでは「場面別の支援技術」についての学習をはじめましょう。

単元5 第2章



場面別の支援技術

学習場面での支援技術

金森克浩
(日本福祉大学 教授)

この講義は、ATA研修 単元5 第2章「学習場面での支援技術」です。
講師は、日本福祉大学 教授 金森克浩 先生です。

講師紹介 金森 克浩



■ 専門

特別支援教育

肢体不自由教育

アシスティブテクノロジー

- 特別支援教育においてICT活用を有効に活用するための研究をしている



■ 金森 克浩
(日本福祉大学 教授)



2

講師の金森克浩先生をご紹介します。

金森先生は、日本福祉大学教授で、

「特別支援教育」「肢体不自由教育」「アシスティブテクノロジー」を専門としています。

また、特別支援教育において、ICT活用を有効に活用するための研究をされています。

この章のねらい



■ 学習目標

- ▶ 学習場面での支援技術についての知識を得る

■ 学習のゴール

- ▶ 合理的配慮としての支援技術の活用について説明できるようになる
- ▶ 様々な学習場面での支援技術について知識を得て、検討する力を付ける

3

この章のねらいについて説明します。

学習目標は、学習場面での支援技術についての知識を得ることです。

学習のゴールは、合理的配慮としての支援技術の活用について説明できるようになること、また、様々な学習場面での支援技術について知識を得て、検討する力を付けることです。

目次



1. はじめに
2. 基本的な考え方
3. 合理的配慮と基礎的環境整備
4. 場面別での支援技術の実際
5. 学習のまとめ

1. はじめに



1. はじめに

- この章を学習するにあたってのポイント
 - ▶ 障害のある幼児児童生徒学生が学習するにあたって、検討すべき課題と支援技術の関連を知る
- この章で学習することの要約
 - ▶ 特別支援教育における支援技術の位置づけの理解と合理的配慮と基礎的環境整備について解説する
 - ▶ 学びの場面別でどのような事が行われているかを学び、検討する力を付ける

5

この章を学習するにあたってのポイントを説明します。

障害のある幼児、児童、生徒、学生が学習するにあたって、検討すべき課題と支援技術の関連を知ることです。

この章で学習することの要約です。

特別支援教育における支援技術の位置づけの理解と合理的配慮と基礎的環境整備について説明します。

学びの場面でどのような事が行われているかを学び、検討する力を付けてもらいます。

目次



1. はじめに
2. 基本的な考え方
3. 合理的配慮と基礎的環境整備
4. 場面別での支援技術の実際
5. 学習のまとめ

2. 基本的な考え方

2. 基本的な考え方



■ 学習場面において支援技術を活用する3つのポイント

1. 社会参加と自立
2. コミュニケーション支援
3. 楽しく学ぶ

7

学習場面において支援技術を活用する上で以下の3つのポイントがあります。

社会参加と自立、
コミュニケーション支援、
楽しく学ぶ、
ということです。
これからその3つについて説明します。

2-1. 社会参加と自立



- 誰もが社会参加や自立は重要だが、障害があることで社会参加や自立が阻まれている
- 学校における学習において、それらの基礎的力を身につけることは重要
- 特別支援学校における「自立活動」にも規定されている

8

社会参加と自立

誰もが社会参加や自立は重要です。障害がある、障害がないということではないです。

ただし、障害があるために社会参加や自立が阻まれてしまう、ということがあります。

なので、学校において、それらの基礎的な力を身につけていくということはとても重要だと考えられます。

特別支援学校における「自立活動」もそういう意味合いが含まれていると思います。

支援機器を活用することはとても重要だと思います。

2-2. コミュニケーション支援



■ 「情報」という切り口で考え共通する困難

- 様々な情報を得ることの困難さ
 - (視覚障害・聴覚障害)
- 様々な情報を操作することの困難さ
 - (肢体不自由・病弱)
- 様々な情報を処理することの困難さ
 - (知的障害・発達障害)

9

2つ目はコミュニケーション支援です。

コミュニケーション支援という事でいうと「情報」ということで考えていくとよくわかると思います。

以下の3つのことが、考えられます。

1つ目は様々な情報を得ることの困難さです。

例えば、視覚障害のある人が、街を歩いている時に、道路に車が止まっているとしましょう。

そのトラックのサイドミラーが横に突き出していると、視覚障害のある人はそれにぶつかって怪我をする。

という話があります。そこにそのものがある、という事を見つけることがわからなければ困難がある、という事になります。

2-2. コミュニケーション支援



■ 「情報」という切り口で考え共通する困難

- 様々な情報を得ることの困難さ
 - (視覚障害・聴覚障害)
- 様々な情報を操作することの困難さ
 - (肢体不自由・病弱)
- 様々な情報を処理することの困難さ
 - (知的障害・発達障害)

10

次に、聴覚障害のある人が電車に乗っている時を考えてみましょう。事故があって次の駅まで進まないということがあった時に、大抵の場合は車内放送がかかります。

しかし、その放送が聞こえなければ、どういうことが起こっているかわからず、情報が伝わらない、ということになります。

最近の電車の中ではテレビなどの映像があり、そこに表示されるようになれば、必要な情報が伝わることになるでしょう。

2-2. コミュニケーション支援



■ 「情報」という切り口で考え共通する困難

- 様々な情報を得ることの困難さ
 - (視覚障害・聴覚障害)
- 様々な情報を操作することの困難さ
 - (肢体不自由・病弱)
- 様々な情報を処理することの困難さ
 - (知的障害・発達障害)

11

2つ目は、様々な情報を操作することに困難さがある人たちがいます。例えば肢体不自由や病弱な人たちは、自分たちが情報を操作できないという困難さがあります。

教科書やノートがあったとしてもそのページがめくれないと必要な情報にアクセスすることができません。

3つ目は様々な情報を処理することの困難さです。

知的障害や発達障害がある人たちにはその言葉がわからない、意味がわからないというようなことが起こります。

彼らがわかるような情報で伝えるということが必要になってきます。

2-3. 学びの楽しさを知ること



- 学校の学習において最も大切なことは自ら学ぶ力を身につけること
- そのためには学習内容が本人に理解できなければならない
- 教材のアクセシビリティが確保されていない場合は学びは楽しくならない

12

3つ目は学びの楽しさを知ることです。

学校の学習において最も大切なことは自ら学ぶ力をつけることではないでしょうか。

その為には、学習内容が本人理解できる形にしなければなりません。理解できるような学習の形を工夫することが必要です。

教材が彼らにとって理解できるような形になる、というのをアクセシビリティといいます。アクセシビリティが確保されなければ学びの楽しさは得られないと考えられます。

目次



1. はじめに
2. 基本的な考え方
3. 合理的配慮と基礎的環境整備
4. 場面別での支援技術の実際
5. 学習のまとめ

3. 合理的配慮と基礎的環境整備

3. 合理的配慮と基礎的環境整備



- 学習に参加するためには教育環境そのものが整備されている必要がある
 - ▶ 基礎的環境整備
- その上で個別に配慮されている必要がある
 - ▶ 合理的配慮

14

合理的配慮と基礎的環境整備について説明をします。

学習に参加するためには教育環境そのものが、さまざま、参加できるかたちで整備されている必要があります。

基礎的環境整備はそういうことが求められます。

その上で個別に配慮されている必要があります。

個々にそれぞれのニーズは違いますので、そこに合わせるためには合理的配慮が必要になります。

3-1. 合理的配慮



- 障害のある子どもが、他の子どもと平等に「教育を受ける権利」を享有・行使することを確保するために、学校の設置者及び学校が必要かつ適当な変更・調整を行うことであり、障害のある子どもに対し、その状況に応じて、学校教育を受ける場合に個別に必要とされるもの」であり、「学校の設置者及び学校に対して、体制面、財政面において、均衡を失した又は過度の負担を課さないもの」

(文部科学省：共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育の推進(報告))

15

合理的配慮についての説明です。

文部科学省は共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育の推進報告で合理的配慮について以下のように説明しています。

障害のある子どもが、他の子どもと平等に「教育を受ける権利」を享有・行使することを確保するために、「学校の設置者及び学校が必要かつ適当な変更・調整を行うことであり、障害のある子どもに対し、その状況に応じて、学校教育を受ける場合に個別に必要とされるもの」と示されています。

学校の設置者及び学校に対して、体制面、財政面において、均衡を失した又は過度の負担を課さない、となっていますので、なにもができるという事ではありませんが、必要なことはと求めていかなければいけないと考えられています。

3-2. 基礎的環境整備



- 「合理的配慮」の充実を図る上で、「基礎的環境整備」の充実は欠かせない。そのため、必要な財源を確保し、国、都道府県、市町村は、インクルーシブ教育システムの構築に向けた取組として、「基礎的環境整備」の充実を図っていく必要がある。

(文部科学省：共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育の推進（報告）)

16

キソテキカンキョウセイビ

同じ報告にはこう書かれています。

「合理的配慮」の充実を図る上で、基礎的環境の整備の充実は欠かせない。

そのために必要な財源を確保し、国、都道府県、市町村は、インクルーシブ教育システムの構築に向けた取り組みとして、「基礎的環境整備」の充実を図っていく必要がある、とされています。

(文部科学省：共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育の推進（報告）)

目次



1. はじめに
2. 基本的な考え方
3. 合理的配慮と基礎的環境整備
4. 場面別での支援技術の実際
5. 学習のまとめ

4. 場面別での支援技術の実際



4. 場面別での支援技術の実際

■ 学びの場面別での支援技術の実際

1. 特別支援学校
2. 小中高等学校
3. 大学等

次に場面別での支援技術の実際について説明をします。

主に、特別支援学校、小中高等学校、大学等についての実際について説明をします。

4-1. 特別支援学校



- 特別支援学校においては、学校外の支援技術に詳しい関係者と連携を図っている
 - ▶ Ex. 作業療法士、理学療法士、言語聴覚士等
- 学校内においては専門部署を設置して校内外の支援体制を取っている学校もある
 - ▶ Ex. 自立活動部、ICT管理部、支援部等
- 校内での支援機器の整備や校内外への支援を進めるためには専門的な部署を設置することが望まれる

19

特別支援学校です。

特別支援学校においては、学校外の支援技術に詳しい関係者と連携を図っています。

例えば、作業療法士、理学療法士、言語聴覚士等など、専門家が学校の中に入っていたり、

または、学校にアドバイスをしているというケースがあります。

学校内においては専門部署を置いて、校内外の支援を行っている学校もあります。

例えば、自立活動部、ICT管理部、支援部等の名前がついています。

校内での支援機器の整備や、校内外への支援を進めるためには専門的な部署を設置することが望まれています。

4-2. 小中高等学校



- 小中高等学校では様々な教育の場で支援が必要な児童生徒が在籍している
- しかし、特別支援学校のように、支援機器を専門とする部署は無いので、学校外のリソースを活用することがポイントとなる
- どの学校段階においても特別支援教育コーディネーターが存在するので、このコーディネーターへ必要な情報を提供すること、及び連携することが重要になる

20

小中高等学校

小中高等学校では様々な教育の場で支援が必要な児童生徒が在籍しています。

しかし、特別支援学校のように、支援機器を専門とする部署は無いので、学校外のリソースを活用することがポイントとなります。

どの学校段階においても、その学校には特別支援教育コーディネーターが存在するので、このコーディネーターへ必要な情報を提供すること、または連携することが重要だと考えられます。

4-3. 大学等



- 障害学生を支援する部署が増えてきている
- 大学における支援技術を活用した支援
 - ▶ 入学試験
 - ▶ 授業
 - ▶ 定期テスト

大学です。

大学において、障害学生を支援する部署が増えています。

また、大学における支援技術を活用した支援としては、入学試験における合理的配慮、授業、定期テストなどがあります。

4-3. 大学等



■ 具体的な内容としては

- ▶ PCによる解答
- ▶ ノートテイク
- ▶ アクセシビリティに配慮したICT教材の作成

障害のある学生の修学支援に関する検討会報告（第二次まとめ）について

(https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/koutou/074/gaiyou/1384405.htm)

22

具体的な内容としては、パソコンによる解答、ノートテイク、アクセシビリティに配慮したICT教材の作成などがあります。

障害のある学生の修学支援に関する検討会報告について、詳しく書かれていますので、そちらを参照してみましょう。

目次



1. はじめに
2. 基本的な考え方
3. 合理的配慮と基礎的環境整備
4. 場面別での支援技術の実際
5. 学習のまとめ

5. 学習のまとめ

5. 学習のまとめ



- 本日の講義では学習場面での支援技術について学んだ
- 具体的な指導場面をイメージしながら学ぶためには、積極的に学校現場に関わっていくことが大切になる
- 参考資料には有益な情報を得られるWebサイトを掲載したので、これらを参照する

24

本日の講義では学習場面での支援技術について学びました。

具体的な指導場面をイメージしながら学ぶためには、積極的に学校現場に関わっていくことが大切になります。

参考資料には有益な情報を得られるWebサイトを掲載したので、これらを参照しましょう。

以上で終わります。



参考資料

- ▶ 文部科学省 特別支援教育
https://www.mext.go.jp/a_menu/01_m.htm
- ▶ 国立特別支援教育総合研究所インクルDB
<http://inclusive.nise.go.jp/>
- ▶ 聴覚障害学生サポートブック
<http://www.pepnet-j.org/web/modules/tinydl/index.php?id=371&tmid=466>



参考資料

▶ Kintaのブログ

<https://www.magicaltoybox.org/kinta/>

▶ LITALICO発達ナビ

<https://h-navi.jp/>

単元5 第2章I



場面別の支援技術

学習場面での支援技術 ケーススタディI

金森克浩
(日本福祉大学 教授)

この講義は、ATA研修 単元5 第2章 I節「学習場面での支援技術 ケーススタディI」です。

講師は、日本福祉大学 教授 金森克浩 先生です。

この章のねらい



■ 学習目標

- ▶ 学習場面での支援技術についての知識を得る

■ 学習のゴール

- ▶ 様々な学習場面での支援技術について知識を得て、検討する力を付ける

2

この章のねらいについて説明します。

学習目標は、学習場面での支援技術についての知識を得ることです。

学習のゴールは、様々な学習場面での支援技術について知識を得て、検討する力を付けることです。

目次



1. はじめに
2. ケーススタディ
3. 学習のまとめ

1. はじめに

1. はじめに



- この章を学習するにあたってのポイント
 - ▶ 障害のある幼児児童生徒学生が学習するにあたって、検討すべき課題と支援技術の関連を知る
- この章で学習することの要約
 - ▶ 学びの場面別でどのような事が行われているかを学び、検討する力を付ける

4

この章を学習するにあたってのポイントを説明します。

障害のある幼児、児童、生徒、学生が学習するにあたって、検討すべき課題と支援技術の関連を知ることです。

この章で学習することの要約です。

学びの場面でどのような事が行われているかを学び、検討する力をつけてもらいます。

目次



1. はじめに
2. ケーススタディ
3. 学習のまとめ

2. ケーススタディ

2. ケーススタディ



- 具体的な学習場面を想定して支援機器の活用について検討する

6

次に、具体的な学習場面を想定して支援機器の活用について考えていきましょう。



2. ケーススタディ

1. 読み書きに困難がある児童
2. 車いすに乗っている生徒
3. 聴覚障害のある大学生
4. 病院に入院している生徒
5. 視覚に障害のある児童

ここでは以下の5つのケースについて皆さんで考えてもらいたいと思います。

2-1. 読み書きに困難がある児童



【課題】

- 読み書きに困難があるとどのようなことが困るだろうか？
- 考えられる困難について調べてみよう(制限時間：10分間)

8

まずは読み書きに困難がある児童についてです。

読み書きに困難があるとどのようなことが困るでしょうか。

考えられる困難について約10分ほど、インターネット等を使って調べてみましょう。

2-1. 読み書きに困難がある児童



【課題】

- 読み書きに困難があるとどのようなことが困るだろうか？
- 考えられる困難について調べてみよう(制限時間：10分間)

9

(映像用)

2-1. 読み書きに困難がある児童



【事例】

- A児は通常の学級に在籍する4年生の児童。2年生程度の漢字の読み書きはできるが時間がかかり、勝手な読みが多く、文章を正確に理解することが難しい
- また、書きについても時間がかかり授業時間内で板書をノートに写すことができない

10

次に以下の事例について考えてみましょう。

A児は通常の学級に在籍する4年生の児童です。

2年生程度の漢字の読み書きはできますが、時間がかかり、勝手な読みが多く、文章を正確に理解することが難しいです。

また、書きについても時間がかかり、授業時間内で板書をノートに写すことができません。

2-1. 読み書きに困難がある児童



- どのようなアセスメントと支援の方法があるか考えてみよう(制限時間：10分間)

11

さて、このような児童にどのようなアセスメントと支援の方法があるか考えてみましょう。

2-1. 読み書きに困難がある児童



- どのようなアセスメントと支援の方法があるか考えてみよう(制限時間：10分間)

(映像用)

2-1. 読み書きに困難がある児童



- どのようなアセスメントと支援の方法があるか、インターネットなどを活用して調べてみよう(制限時間：10分間)

13

さて、このような児童にどのようなアセスメントと支援の方法があるか考えてみましょう。

また、その上でインターネットなどを活用してどのようなものがあるか調べてみましょう。

2-1. 読み書きに困難がある児童



- どのようなアセスメントと支援の方法があるか、インターネットなどを活用して調べてみよう(制限時間：10分間)

(映像用)

目次



1. はじめに
2. ケーススタディ
3. 学習のまとめ

3. 学習のまとめ

3. 学習のまとめ



- 本日の講義では学習場面での支援技術について学んだ
- 具体的な指導場면을イメージしながら学ぶためには、積極的に学校現場に関わっていくことが大切になる

16

本日の講義では学習場面での支援技術について学びました。
具体的な指導場면을イメージしながら学ぶためには、積極的に学校現場に関わっていくことが大切になります。

以上で終わります。

単元5 第2章2



場面別の支援技術

学習場面での支援技術 ケーススタディ2

金森克浩
(日本福祉大学 教授)

この講義は、ATA研修 単元5 第2章 2節「学習場面での支援技術 ケーススタディ2」です。

講師は、日本福祉大学 教授 金森克浩 先生です。

この章のねらい



■ 学習目標

- ▶ 学習場面での支援技術についての知識を得る

■ 学習のゴール

- ▶ 様々な学習場面での支援技術について知識を得て、検討する力を付ける

2

この章のねらいについて説明します。

学習目標は、学習場面での支援技術についての知識を得ることです。

学習のゴールは、様々な学習場面での支援技術について知識を得て、検討する力を付けることです。

目次



1. はじめに
2. ケーススタディ
3. 学習のまとめ

1.はじめに



1. はじめに

- この章を学習するにあたってのポイント
 - ▶ 障害のある幼児児童生徒学生が学習するにあたって、検討すべき課題と支援技術の関連を知る
- この章で学習することの要約
 - ▶ 学びの場面別でどのような事が行われているかを学び、検討する力を付ける

4

この章を学習するにあたってのポイントを説明します。

障害のある幼児、児童、生徒、学生が学習するにあたって、検討すべき課題と支援技術の関連を知ることです。

この章で学習することの要約です。

学びの場面でどのような事が行われているかを学び、検討する力を付けてもらいます。

目次



1. はじめに
2. ケーススタディ
3. 学習のまとめ

2. ケーススタディ

2. ケーススタディ



- 具体的な学習場面を想定して支援機器の活用について検討する

6

次に、具体的な学習場面を想定して支援機器の活用について考えていきましょう。



2. ケーススタディ

1. 読み書きに困難がある児童
2. 車いすに乗っている生徒
3. 聴覚障害のある大学生
4. 病院に入院している生徒
5. 視覚に障害のある児童

7

ここでは以下の5つのケースについて皆さんで考えてもらいたいと思います。

2-1. 車いすに乗っている生徒



【課題】

- 肢体不自由があると学習にどのようなことが困るだろうか？
- 考えられる困難について調べてみよう(制限時間：10分間)

8

肢体不自由があると学習にどのようなことが困るでしょうか？
考えられる困難について調べてみましょう。

2-1. 車いすに乗っている生徒



【課題】

- 肢体不自由があると学習にどのようなことが困るだろうか？
- 考えられる困難について調べてみよう(制限時間：10分間)

(映像用)

2-1. 車いすに乗っている生徒



【事例】

- B児は特別支援学校に在籍する中学部1年生の生徒
- 脳性まひがあり歩行が困難なため日常的に電動車いすを使用している
- 手にもまひがあるので、鉛筆を持つことはできるが時間がかかる。パソコンのキーボードを押すことはできるが、間違えて違うキーを押すこともある。

10

車いすに乗っている生徒です。

B児は特別支援学校に在籍する中学部1年生の生徒です。

脳性まひがあり歩行が困難なため日常的に電動車いすを使用しています。

手にもまひがあるので、鉛筆を持つことはできますが時間がかかります。

また、パソコンのキーボードを押すことはできますが、間違えて違うキーを押すこともあります。

2-1. 車いすに乗っている生徒



- どのようなアセスメントと支援の方法があるか考えてみよう(制限時間：10分間)

11

さて、このような生徒にどのようなアセスメントと支援の方法があるか考えてみましょう。

2-1. 車いすに乗っている生徒



- どのようなアセスメントと支援の方法があるか考えてみよう(制限時間：10分間)

12

(映像用)

2-1. 車いすに乗っている生徒



- どのようなアセスメントと支援の方法があるか、インターネットなどを活用して調べてみよう(制限時間：10分間)

13

さて、このような生徒にどのようなアセスメントと支援の方法があるか考えてみましょう。

また、インターネットなどを活用して必要な機器について調べましょう。

2-1. 車いすに乗っている生徒



- どのようなアセスメントと支援の方法があるか、インターネットなどを活用して調べてみよう(制限時間：10分間)

(映像用)

目次



1. はじめに
2. ケーススタディ
3. 学習のまとめ

3. 学習のまとめ

3. 学習のまとめ



- 本日の講義では学習場面での支援技術について学んだ
- 具体的な指導場면을イメージしながら学ぶためには、積極的に学校現場に関わっていくことが大切になる

16

本日の講義では学習場面での支援技術について学びました。
具体的な指導場면을イメージしながら学ぶためには、積極的に学校現場に関わっていくことが大切になります。

以上で終わります。

単元5 第2章3



場面別の支援技術

学習場面での支援技術 ケーススタディ3

金森克浩
(日本福祉大学 教授)

この講義は、ATA育成研修 単元5 第2章 3節「学習場面での支援技術
ケーススタディ3」です。

講師は、日本福祉大学 教授 金森克浩 先生です。

この章のねらい



■ 学習目標

- ▶ 学習場面での支援技術についての知識を得る

■ 学習のゴール

- ▶ 様々な学習場面での支援技術について知識を得て、検討する力を付ける

2

この章のねらいについて説明します。

学習目標は、学習場面での支援技術についての知識を得ることです。

学習のゴールは、様々な学習場面での支援技術について知識を得て、検討する力を付けることです。

目次



1. はじめに
2. ケーススタディ
3. 学習のまとめ

1.はじめに



1. はじめに

- この章を学習するにあたってのポイント
 - ▶ 障害のある幼児児童生徒学生が学習するにあたって、検討すべき課題と支援技術の関連を知る
- この章で学習することの要約
 - ▶ 学びの場面別でどのような事が行われているかを学び、検討する力を付ける

4

この章を学習するにあたってのポイントを説明します。

障害のある幼児、児童、生徒、学生が学習するにあたって、検討すべき課題と支援技術の関連を知ることです。

この章で学習することの要約です。

学びの場面でどのような事が行われているかを学び、検討する力を付けてもらいます。

目次



1. はじめに
2. ケーススタディ
3. 学習のまとめ

2. ケーススタディ

2. ケーススタディ



- 具体的な学習場面を想定して支援機器の活用について検討する

6

次に、具体的な学習場面を想定して支援機器の活用について考えていきましょう。



2. ケーススタディ

1. 読み書きに困難がある児童
2. 車いすに乗っている生徒
3. 聴覚障害のある大学生
4. 病院に入院している生徒
5. 視覚に障害のある児童

ここでは以下の5つのケースについて皆さんで考えてもらいたいと思います。

2-1. 聴覚障害のある大学生



【課題】

- 聴覚に障害があると学習にどのようなことが困るだろうか？
- 考えられる困難について調べてみよう(制限時間：10分間)

8

聴覚に障害があると学習にどのようなことが困るでしょうか？
考えられる困難について調べてみましょう。

2-1. 聴覚障害のある大学生



【課題】

- 聴覚に障害があると学習にどのようなことが困るだろうか？
- 考えられる困難について調べてみよう(制限時間：10分間)

(映像用)

2-1. 聴覚障害のある大学生



【事例】

- Cさんは大学1年生
- 聴覚障害があり日常的には手話を使うが、健聴者とのコミュニケーションにおいては筆談や口話を使うこともある

10

聴覚障害のある大学生についてです。

Cさんは大学1年生。

聴覚障害があり日常的には手話を使いますが、健聴者とのコミュニケーションにおいては筆談や口話を使うこともあります。

2-1. 聴覚障害のある大学生



- どのようなアセスメントと支援の方法があるか考えてみよう(制限時間：10分間)

11

Cさんについて、大学としてはどのようなアセスメントと支援の方法があるか考えてみましょう。

2-1. 聴覚障害のある大学生



- どのようなアセスメントと支援の方法があるか考えてみよう(制限時間：10分間)

12

(映像用)

2-1. 聴覚障害のある大学生



- どのようなアセスメントと支援の方法があるか、インターネットなどを活用して調べてみよう(制限時間：10分間)

13

Cさんについて、大学としてはどのようなアセスメントと支援の方法があるか考えてみましょう。

また、インターネットなどを活用してどのような支援機器やどのような方法があるか調べてみましょう。

2-1. 聴覚障害のある大学生



- どのようなアセスメントと支援の方法があるか、インターネットなどを活用して調べてみよう(制限時間：10分間)

14

(映像用)

目次



1. はじめに
2. ケーススタディ
3. 学習のまとめ

3. 学習のまとめ

3. 学習のまとめ



- 本日の講義では学習場面での支援技術について学んだ
- 具体的な指導場면을イメージしながら学ぶためには、積極的に学校現場に関わっていくことが大切になる

16

本日の講義では学習場面での支援技術について学びました。
具体的な指導場면을イメージしながら学ぶためには、積極的に学校現場に関わっていくことが大切になります。

以上で終わります。

単元5 第2章4



場面別の支援技術

学習場面での支援技術 ケーススタディ4

金森克浩
(日本福祉大学 教授)

この講義は、ATA研修 単元5 第2章 4節「学習場面での支援技術 ケーススタディ4」です。

講師は、日本福祉大学 教授 金森克浩 先生です。

この章のねらい



■ 学習目標

- ▶ 学習場面での支援技術についての知識を得る

■ 学習のゴール

- ▶ 様々な学習場面での支援技術について知識を得て、検討する力を付ける

2

この章のねらいについて説明します。

学習目標は、学習場面での支援技術についての知識を得ることです。

学習のゴールは、様々な学習場面での支援技術について知識を得て、検討する力を付けることです。

目次



1. はじめに
2. ケーススタディ
3. 学習のまとめ

1. はじめに



1. はじめに

- この章を学習するにあたってのポイント
 - ▶ 障害のある幼児児童生徒学生が学習するにあたって、検討すべき課題と支援技術の関連を知る
- この章で学習することの要約
 - ▶ 学びの場面別でどのような事が行われているかを学び、検討する力を付ける

4

この章を学習するにあたってのポイントを説明します。

障害のある幼児、児童、生徒、学生が学習するにあたって、検討すべき課題と支援技術の関連を知ることです。

この章で学習することの要約です。

学びの場面でどのような事が行われているかを学び、検討する力を付けてもらいます。

目次



1. はじめに
2. ケーススタディ
3. 学習のまとめ

2. ケーススタディ

2. ケーススタディ



- 具体的な学習場面を想定して支援機器の活用について検討する

6

次に、具体的な学習場面を想定して支援機器の活用について考えていきましょう。



2. ケーススタディ

1. 読み書きに困難がある児童
2. 車いすに乗っている生徒
3. 聴覚障害のある大学生
4. 病院に入院している生徒
5. 視覚に障害のある児童

7

ここでは以下の5つのケースについて皆さんで考えてもらいたいと思います。

2-1. 病院に入院している生徒



【課題】

- 病院に入院していると学習にどのようなことが困るだろうか？
- 考えられる困難について調べてみよう(制限時間：10分間)

8

病院に入院していると学習にどのようなことが困るでしょうか。
考えられる困難について調べてみましょう。

2-1. 病院に入院している生徒



【課題】

- 病院に入院していると学習にどのようなことが困るだろうか？
- 考えられる困難について調べてみよう(制限時間：10分間)

(映像用)

2-1. 病院に入院している生徒



- 【事例】
- Dさんは病弱特別支援学校の院内学級に在籍する高等部1年生
- 治療のため入院しているが、卒業後は大学進学を考えている

10

Dさんは病弱特別支援学校の院内学級に在籍する高等部1年生です。治療のため入院していますが、卒業後は大学進学を考えています。

2-1. 病院に入院している生徒



- どのようなアセスメントと支援の方法があるか考えてみよう(制限時間：10分間)

11

Dさんについて、どのようなアセスメントと支援の方法があるかを考えてみましょう。

2-1. 病院に入院している生徒



- どのようなアセスメントと支援の方法があるか考えてみよう(制限時間：10分間)

12

(映像用)

2-1. 病院に入院している生徒



- どのようなアセスメントと支援の方法があるか、インターネットなどを活用して調べてみよう(制限時間：10分間)

13

Dさんについて、どのようなアセスメントと支援の方法があるかを考えてみましょう。

次に、インターネットなどを活用してどのような支援機器やどのような方法があるか調べてみましょう。

2-1. 病院に入院している生徒



- どのようなアセスメントと支援の方法があるか、インターネットなどを活用して調べてみよう(制限時間：10分間)

(映像用)

目次



1. はじめに
2. ケーススタディ
3. 学習のまとめ

3. 学習のまとめ

3. 学習のまとめ



- 本日の講義では学習場面での支援技術について学んだ
- 具体的な指導場면을イメージしながら学ぶためには、積極的に学校現場に関わっていくことが大切になる

16

本日の講義では学習場面での支援技術について学びました。
具体的な指導場면을イメージしながら学ぶためには、積極的に学校現場に関わっていくことが大切になります。

以上で終わります。

単元5 第2章5



場面別の支援技術

学習場面での支援技術 ケーススタディ5

金森克浩
(日本福祉大学 教授)

この講義は、ATA研修 単元5 第2章 5節「学習場面での支援技術 ケーススタディ5」です。

講師は、日本福祉大学 教授 金森克浩 先生です。

この章のねらい



■ 学習目標

- ▶ 学習場面での支援技術についての知識を得る

■ 学習のゴール

- ▶ 合理的配慮としての支援技術の活用について説明できるようになる
- ▶ 様々な学習場面での支援技術について知識を得て、検討する力を付ける

2

この章のねらいについて説明します。

学習目標は、学習場面での支援技術についての知識を得ることです。

学習のゴールは、様々な学習場面での支援技術について知識を得て、検討する力を付けることです。

目次



1. はじめに
2. ケーススタディ
3. 学習のまとめ

1. はじめに



1. はじめに

- この章を学習するにあたってのポイント
 - ▶ 障害のある幼児児童生徒学生が学習するにあたって、検討すべき課題と支援技術の関連を知る
- この章で学習することの要約
 - ▶ 特別支援教育における支援技術の位置づけの理解と合理的配慮と基礎的環境整備について解説する
 - ▶ 学びの場面別でどのような事が行われているかを学び、検討する力を付ける

4

この章を学習するにあたってのポイントを説明します。

障害のある幼児、児童、生徒、学生が学習するにあたって、検討すべき課題と支援技術の関連を知ることです。

この章で学習することの要約です。

学びの場面でどのような事が行われているかを学び、検討する力を付けてもらいます。

目次



1. はじめに
2. ケーススタディ
3. 学習のまとめ

2. ケーススタディ

2. ケーススタディ



- 具体的な学習場面を想定して支援機器の活用について検討する

6

次に、具体的な学習場面を想定して支援機器の活用について考えていきましょう。



2. ケーススタディ

1. 読み書きに困難がある児童
2. 車いすに乗っている生徒
3. 聴覚障害のある大学生
4. 病院に入院している生徒
5. 視覚に障害のある児童

ここでは以下の5つのケースについて皆さんで考えてもらいたいと思います。

2-1. 視覚に障害のある児童



【課題】

- 視覚に障害があると学習にどのようなことが困るだろうか？
- 考えられる困難について調べてみよう
(制限時間：10分間)

8

視覚に障害があると学習にどのようなことが困るでしょうか。
考えられる困難について調べてみましょう。

2-1. 視覚に障害のある児童



【課題】

- 視覚に障害があると学習にどのようなことが困るだろうか？
- 考えられる困難について調べてみよう
(制限時間：10分間)

9

(映像用)

2-1. 視覚に障害のある児童



【事例】

- Eさんは小学校に通う5年生の児童。
- 弱視があるため、通常の教科書を読むことに困難がある
- 視覚障害特別支援学校からの支援を受けている

10

Eさんは小学校に通う5年生の児童です。
弱視があるため、通常の教科書を読むことに困難さがあります。
視覚障害特別支援学校からの支援を受けています。

2-1. 視覚に障害のある児童



- どのようなアセスメントと支援の方法があるか考えてみよう(制限時間：10分間)

11

Eさんにどのようなアセスメントと支援の方法があるかを考えてみましょう。

2-1. 視覚に障害のある児童



- どのようなアセスメントと支援の方法があるか考えてみよう(制限時間：10分間)

(映像用)

2-1. 視覚に障害のある児童



- どのようなアセスメントと支援の方法があるか、インターネットなどを活用して調べてみよう(制限時間：10分間)

13

Eさんにどのようなアセスメントと支援の方法があるかを考えてみましょう。

また、インターネットなどを活用してどのような支援機器やどのような方法があるかを調べてみましょう。

2-1. 視覚に障害のある児童



- どのようなアセスメントと支援の方法があるか、インターネットなどを活用して調べてみよう(制限時間：10分間)

(映像用)

目次



1. はじめに
2. ケーススタディ
3. 学習のまとめ

3. 学習のまとめ

3. 学習のまとめ



- 本日の講義では学習場面での支援技術について学んだ
- 具体的な指導場면을イメージしながら学ぶためには、積極的に学校現場に関わっていくことが大切になる

16

本日の講義では学習場面での支援技術について学びました。
具体的な指導場면을イメージしながら学ぶためには、積極的に学校現場に関わっていくことが大切になります。

以上で終わります。

単元5 第3章



場面別の支援技術

就労場面での支援技術

金森克浩
(日本福祉大学 教授)

この講義は、ATA研修 単元5 第3章「学習場面での支援技術」です。
講師は、日本福祉大学 教授 金森克浩 先生です。

この章のねらい



■ 学習目標

- ▶ 就労場面での支援技術についての知識を得る

■ 学習のゴール

- ▶ 障害のある人が就労する上で支援技術がどのような役割を果たすか説明できるようになる
- ▶ 様々な就労場面での支援技術について知識を得て、検討する力を付ける

2

この章のねらいについて説明します。

学習目標です。

就労場面での支援技術についての知識を得ることです。

学習のゴールです。

障害のある人が就労する上で支援技術がどのような役割を果たすか説明できるようになる、

また、様々な就労場面での支援技術について知識を得て、検討する力をつけるようになるということです。

目次



1. はじめに
2. 障害のある人と仕事
3. 一般就労以外の働き方
4. 就労支援機器
5. 学習のまとめ

1. はじめに



1. はじめに

- この章を学習するにあたってのポイント
 - ▶ 障害のある人が就労するにあたって、検討すべき課題と支援技術の関連を知る
- この章で学習することの要約
 - ▶ 障害のある人の就労とそれに関する情報を把握する
 - ▶ 就労支援機器についての知識を得る
 - ▶ ケーススタディを通して支援機器活用について検討する力を付ける

4

この章を学習するにあたってのポイントです。

障害のある人が就労するにあたって検討すべき課題と支援技術の関連を知ることです。

この章で学習することの要約です。

障害のある人の就労とそれに関する情報を把握する事、また、就労支援機器についての知識を得ること、

ケーススタディを通して、支援機器活用について検討する力を付けることです。

目次



1. はじめに
2. 障害のある人と仕事
3. 一般就労以外の働き方
4. 就労支援機器
5. 学習のまとめ

2. 障害のある人と仕事

2. 障害のある人と仕事



- (独) 高齢・障害・求職者雇用支援機構
 - ▶ 高齢者の雇用の確保、障害者の職業的自立の推進、求職者その他労働者の職業能力の開発及び向上のために、高齢者、障害者、求職者、事業主等の方々に対して総合的な支援を行っている
- 広域障害者職業支援センター、地域障害者職業センター（含、高齢・障害者雇用支援センター）

6

独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構では、高齢者の雇用の確保、障害者の職業的自立の推進、求職者その他労働者の職業能力の開発及び向上のために、高齢者、障害者、求職者、事業主等の方々に対して総合的な支援を行っています。

また、広域障害者職業支援センターや地域障害者職業センターでは、さまざまな支援が行われています。

2. 障害のある人と仕事



■ 法定雇用率

▶ 障害者の雇用の促進等に関する法律

- 常用雇用労働者数が45.5人以上の事業主
- 達成できない場合、障害者雇用納付金を納める
 - 民間企業 2.2%
 - 国、地方公共団体等 2.5%
 - 都道府県等の教育委員会 2.4%
- 2018年4月に改正され、引き上げられた
(5年ごとに見直し)

7

さて、障害のある人の就労を保障するために法定雇用率というのがあります。

障害者の雇用の促進等に関する法律では、常用雇用労働者数が45.5人以上の事業主を対象にして、達成できない場合、障害者雇用納付金を納めることになっています。

民間企業では2.2%、国・地方公共団体等では2.5%、都道府県等の教育委員会では2.4%です。

5年ごとの見直しがされ、2018年（平成30年）4月に改正され、引き上げられました。

2. 障害のある人と仕事



■ 法定雇用率

▶ 障害者の雇用の促進等に関する法律

● 特例子会社

- 障害者の雇用の促進及び安定を図るため、事業主が障害者の雇用に特別に配慮をした子会社
- 子会社で雇用した障害者の数を親会社の雇用数に算入できる

8

また、障害者の雇用の促進等に関する法律では、特例子会社の制度があります。

障害者の雇用の促進及び安定を図るため、事業主が障害者の雇用に特別に配慮をした子会社です。

子会社で雇用した障害者の数を、親会社の雇用数に算入できるようになっています。

2. 障害のある人と仕事



■ 法定雇用率

▶ 障害者の雇用の促進等に関する法律

- 精神障害者も平成30年度より雇用義務化
- 短時間労働者は、1人を0.5人としてカウント
- 重度身体障害者、重度知的障害者は1人を2人としてカウント
ただし、短時間重度身体障害者、重度知的障害者は1人としてカウント
- 30時間未満が短時間労働

9

2018年（平成30年）度より精神障害者も雇用義務化されました。

短時間労働者は、1人を0.5人としてカウントします。

重度身体障害者、重度知的障害者は1人を2人としてカウントします。

ただし、短時間重度身体障害者、重度知的障害者は1人としてカウントされます。

30時間未満が短時間労働となります。

2. 障害のある人と仕事



■ 法定雇用率

▶ 障害者の雇用の促進等に関する法律

● 2018年実雇用率（毎年6月1日付）

- 国：	1.22%
- 都道府県：	2.44%
- 市町村：	2.38%
- 教育委員会：	1.90%
- 独立行政法人等	2.54%
- 民間企業：	1.97%（2017年）

10

2018年（平成30年）6月1日の実雇用率付は、

国が1.22%

都道府県が2.44%

市町村が2.38%

教育委員会が1.90%

独立行政法人等が2.54%

民間企業が 1.97%

これは2017年（平成29年）のデータとなります。

目次



1. はじめに
2. 障害のある人と仕事
3. 一般就労以外の働き方
4. 就労支援機器
5. 学習のまとめ

3. 一般就労以外の働き方

3. 一般就労以外の働き方



■ 福祉的就労

▶ 就労移行支援

▶ 就労移行支援事業所

- (就労継続支援A型、就労継続支援B型)

■ 職業訓練

12

一般就労以外での働き方としては、福祉的就労、職業訓練があります。
福祉的就労では、就労移行支援、または、就労移行支援事業所としては
就労継続支援A型、就労継続支援B型がというかたちがあります。

目次



1. はじめに
2. 障害のある人と仕事
3. 一般就労以外の働き方
4. 就労支援機器
5. 学習のまとめ

4. 就労支援機器

4. 就労支援機器



- 独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構「就労支援機器のページ」より
 - ▶ 視覚障害と支援機器
 - ▶ 聴覚障害と支援機器
 - ▶ 肢体不自由と支援機器
 - ▶ 知的障害・高次脳機能障害と支援機器
 - ▶ 発達障害と支援機器

14

就労支援機器について説明します。

独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構「就労支援機器のページ」では、

視覚障害と支援機器、聴覚障害と支援機器、肢体不自由と支援機器、知的障害・高次脳機能障害と支援機器、

発達障害と支援機器というような様々な支援機器についての説明があります。

ここではそれをもとに、就労支援機器について説明をします。



4. 就労支援機器

■ 視覚障害と支援機器

- ▶ 拡大読書器
- ▶ 点字ディスプレイ
- ▶ 画面読上げソフト
- ▶ 画面拡大ソフト
- ▶ 文字情報の音声で読み上げ
- ▶ 活字音訳・拡大読書ソフト

視覚障害と支援機器には、拡大読書器、点字ディスプレイ、画面読上げソフト、画面拡大ソフト、文字情報の音声で読み上げ、活字音訳・拡大読書ソフトなどがあります。

4. 就労支援機器



■ 聴覚障害と支援機器

- ▶ 電話関連機器
- ▶ 磁気ループシステム
- ▶ 会議用拡聴器
- ▶ 筆談支援機器
- ▶ 音声認識ソフトウェア
- ▶ 文章音声化コミュニケーション支援ソフト
- ▶ 屋内信号装置
- ▶ メール着信通知装置

16

聴覚障害と支援機器には、電話関連機器、磁気ループシステム、会議用拡聴器、筆談支援機器、音声認識ソフトウェア、文章音声化コミュニケーション支援ソフト、屋内信号装置、メール着信通知装置などがあります。



4. 就労支援機器

■ 肢体不自由と支援機器

- ▶ 音声認識ソフト
- ▶ キーボード・マウス補助具
- ▶ キーボード補助具
- ▶ キーガード
- ▶ スクリーンキーボード
- ▶ 肢体不自由者向けパソコン周辺機器
- ▶ ハンズフリー電話器
- ▶ デスクシート
- ▶ オフィス用三次元電動車いす

17

肢体不自由と支援機器には、音声認識ソフト、キーボード・マウス補助具、キーボード補助具、キーガード、スクリーンキーボード、肢体不自由者向けパソコン周辺機器、ハンズフリー電話器、デスクシート、オフィス用三次元電動車椅子などがあります。

4. 就労支援機器



- 知的障害・高次脳機能障害と支援機器
 - ▶ レジ業務支援システム
 - ▶ 作業スケジュール管理支援機器
 - ▶ タイマー

18

知的障害・高次脳機能障害と支援機器には、レジ業務支援システム、作業スケジュール管理支援機器、タイマーなどがあります。

4. 就労支援機器



■ 発達障害と支援機器

- ▶ 環境調整用具
- ▶ タイマー
- ▶ コミュニケーションエイド

発達障害と支援機器には、環境調整用具、タイマー、コミュニケーションエイドなどがあります。

目次



1. はじめに
2. 障害のある人と仕事
3. 一般就労以外の働き方
4. 就労支援機器
5. 学習のまとめ

5. 学習のまとめ



5. 学習のまとめ

- 本日の講義では就労場面での支援技術について学んだ
- 障害のある人の就労場面は様々あり、これからAIやIoTが普及することにより、労働場面は大きく変化するだろう
そのためにも社会の変化を見ながら支援を考える必要がある
- 参考資料には有益な情報を得られるWebサイトを掲載したので、これらを参照してみよう

21

本日の講義では就労場面での支援技術について学びました。

障害のある人の就労場面は様々であり、これからAIやIoTが普及することにより、労働場面は大きく変化するでしょう。

そのためにも社会の変化を見ながら支援を考える必要があります。

参考資料には有益な情報を得られるWebサイトを掲載したので、これらを参照しましょう。

以上で終わります。



参考資料

▶ 厚生労働省 障害者福祉

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/hukushi_kaigo/shougaishahukushi/index.html

▶ 独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構

<http://www.jeed.or.jp/>

▶ 就労支援機器

<https://www.kiki.jeed.or.jp/>



参考資料

▶ LITALICO仕事ナビ

<https://snabi.jp/>

▶ 「超短時間労働」で障害者雇用を多様化する

https://www.u-tokyo.ac.jp/focus/ja/features/z0508_00009.html

単元5 第3章I



場面別の支援技術

就労場面での支援技術 ケーススタディI

金森克浩
(日本福祉大学 教授)

この講義は、ATA研修 単元5 第3章 I節「学習場面での支援技術 ケーススタディI」です。

講師は、日本福祉大学 教授 金森克浩 先生です。

この章のねらい



■ 学習目標

- ▶ 就労場面での支援技術についての知識を得る

■ 学習のゴール

- ▶ 様々な就労場面での支援技術について知識を得て、検討する力を付ける

2

この章のねらいについて説明します。

学習目標です。

就労場面での支援技術についての知識を得ることです。

学習のゴールです。

様々な就労場面での支援技術について知識を得て、検討する力を付けるようになるということです。

目次



1. はじめに
2. ケーススタディ
3. 学習のまとめ

1. はじめに

1. はじめに



- この章を学習するにあたってのポイント
 - ▶ 障害のある人が就労するにあたって、検討すべき課題と支援技術の関連を知る
- この章で学習することの要約
 - ▶ ケーススタディを通して支援機器活用について検討する力を付ける

4

この章を学習するにあたってのポイントです。

障害のある人が就労するにあたって検討すべき課題と支援技術の関連を知ることです。

この章で学習することの要約です。

ケーススタディを通して、支援機器活用について検討する力を付けることです。

目次



1. はじめに
2. ケーススタディ
3. 学習のまとめ

2. ケーススタディ

2. ケーススタディ



- 具体的な障害別に事例を想定して支援機器の活用について検討する

具体的な障害別に事例を想定して支援機器の活用について検討します。

2. ケーススタディ



1. 視覚障害があるAさん
2. 聴覚障害のあるBさん
3. 肢体不自由のあるCさん
4. 知的障害のあるDさん
5. ADHDとASDのあるEさん
6. 病弱のFさん

7

以下の6つのケースについて検討しましょう。

2-1. 視覚障害のある人の就労



【課題】

- 視覚に障害があると就労する上でどのようなことが困るだろうか？
- 考えられる困難について整理してみよう
(制限時間：10分間)

視覚に障害があると就労する上でどのようなことが困るでしょうか。
考えられる困難について整理してみましょう。

2-1. 視覚障害のある人の就労



【課題】

- 視覚に障害があると就労する上でどのようなことが困るだろうか？
- 考えられる困難について整理してみよう
(制限時間：10分間)

(映像用)

2-1. 視覚障害のある人の就労



【事例】

- Aさんは会社員として働いていたが、3ヶ月前に交通事故で失明した
パソコンを利用した仕事をしていたので文書作成は、慣れていたとのこと
- どのようなサポートと利用可能な支援機器があるかを考えてみよう

10

Aさんは会社員として働いていましたが、3ヶ月前に交通事故で失明しました。パソコンを利用した仕事をしていたので文書作成は、慣れていません。

どのようなサポートと利用可能な支援機器があるかを考えてみましょう。

2-1. 視覚障害のある人の就労



【事例】

- Aさんは会社員として働いていたが、3ヶ月前に交通事故で失明した
パソコンを利用した仕事をしていたので文書作成は、慣れていたとのこと
- どのようなサポートと利用可能な支援機器があるかを考えてみよう

11

(映像用)

2-1. 視覚障害のある人の就労



- どのようなアセスメントと支援の方法があるか、インターネットなどを活用して調べてみよう
(制限時間：10分間)

12

どのようなアセスメントと支援の方法があるか考えてみましょう。
次に、インターネットなどを活用してどのような支援機器やどのような方法があるか調べてみましょう。

2-1. 視覚障害のある人の就労



- どのようなアセスメントと支援の方法があるか、インターネットなどを活用して調べてみよう
(制限時間：10分間)

(映像用)

目次



1. はじめに
2. ケーススタディ
3. 学習のまとめ

3. 学習のまとめ

3. 学習のまとめ



- 本日の講義では就労場面での支援技術について学んだ
- 障害のある人の就労場面は様々あり、これからAIやIoTが普及することにより、労働場面は大きく変化するだろう
そのためにも社会の変化を見ながら支援を考える必要がある

15

本日の講義では就労場面での支援技術について学びました。
障害のある人の就労場面は様々であり、これからAIやIoTが普及することにより、労働場面は大きく変化するでしょう。
そのためにも社会の変化を見ながら支援を考える必要があります。

以上で終わります。

単元5 第3章2



場面別の支援技術

就労場面での支援技術 ケーススタディ2

金森克浩
(日本福祉大学 教授)

この講義は、ATA研修 単元5 第3章 2節「学習場面での支援技術 ケーススタディ2」です。

講師は、日本福祉大学 教授 金森克浩 先生です。

この章のねらい



■ 学習目標

- ▶ 就労場面での支援技術についての知識を得る

■ 学習のゴール

- ▶ 様々な就労場面での支援技術について知識を得て、検討する力を付ける

2

この章のねらいについて説明します。

学習目標です。

就労場面での支援技術についての知識を得ることです。

学習のゴールです。

様々な就労場面での支援技術について知識を得て、検討する力をつけるようになるということです。

目次



1. はじめに
2. ケーススタディ
3. 学習のまとめ

1. はじめに



1. はじめに

- この章を学習するにあたってのポイント
 - ▶ 障害のある人が就労するにあたって、検討すべき課題と支援技術の関連を知る
- この章で学習することの要約
 - ▶ ケーススタディを通して支援機器活用について検討する力を付ける

4

この章を学習するにあたってのポイントです。

障害のある人が就労するにあたって検討すべき課題と支援技術の関連を知ることです。

この章で学習することの要約です。

ケーススタディを通して、支援機器活用について検討する力を付けることです。

目次



1. はじめに
2. ケーススタディ
3. 学習のまとめ

2. ケーススタディ

2. ケーススタディ



- 具体的な障害別に事例を想定して支援機器の活用について検討する

6

具体的な障害別に事例を想定して支援機器の活用について検討します

。



2. ケーススタディ

1. 視覚障害があるAさん
2. 聴覚障害のあるBさん
3. 肢体不自由のあるCさん
4. 知的障害のあるDさん
5. ADHDとASDのあるEさん
6. 病弱のFさん

7

以下の6つのケースについて検討しましょう。

2-1. 聴覚障害のある人の就労



【課題】

- 聴覚に障害があると就労する上でどのようなことが困るだろうか？
- 考えられる困難について整理してみよう
(制限時間：10分間)

8

聴覚に障害があると就労する上でどのようなことが困るでしょうか。
考えられる困難について整理してみましょう。

2-1. 聴覚障害のある人の就労



【課題】

- 聴覚に障害があると就労する上でどのようなことが困るだろうか？
- 考えられる困難について整理してみよう
(制限時間：10分間)

9

(映像用)

2-1. 聴覚障害のある人の就労



【事例】

- Bさんは大学生で補聴器を利用しており、日常的なコミュニケーションは相手によって手話と口話を使い分けている
- 企業へ就労するにあたって、会社に求める合理的配慮や本人が利用できる支援機器として、どのようなものがあるかを考えてみよう

10

Bさんは大学生で補聴器を利用しており、日常的なコミュニケーションは相手によって手話と口話を使い分けています。

企業へ就労するにあたって、会社に求める合理的配慮や本人が利用できる支援機器として、どのようなものがあるかを考えてみましょう。

2-1. 聴覚障害のある人の就労



【事例】

- Bさんは大学生で補聴器を利用しており、日常的なコミュニケーションは相手によって手話と口話を使い分けている
- 企業へ就労するにあたって、会社に求める合理的配慮や本人が利用できる支援機器として、どのようなものがあるかを考えてみよう

11

(映像用)

2-1. 聴覚障害のある人の就労



- どのようなアセスメントと支援の方法があるか、インターネットなどを活用して調べてみよう
(制限時間：10分間)

12

どのようなアセスメントと支援の方法があるかを考えてみましょう。
次に、インターネットなどを活用してどのような支援機器やどのような方法があるかを調べてみましょう。

2-1. 聴覚障害のある人の就労



- どのようなアセスメントと支援の方法があるか、インターネットなどを活用して調べてみよう
(制限時間：10分間)

13

(映像用)

目次



1. はじめに
2. ケーススタディ
3. 学習のまとめ

3. 学習のまとめ

3. 学習のまとめ



- 本日の講義では就労場面での支援技術について学んだ
- 障害のある人の就労場面は様々あり、これからAIやIoTが普及することにより、労働場面は大きく変化するだろう
そのためにも社会の変化を見ながら支援を考える必要がある

15

本日の講義では就労場面での支援技術について学びました。
障害のある人の就労場面は様々であり、これからAIやIoTが普及することにより、労働場面は大きく変化するでしょう。
そのためにも社会の変化を見ながら支援を考える必要があります。

以上で終わります。

単元5 第3章3



場面別の支援技術

就労場面での支援技術 ケーススタディ3

金森克浩
(日本福祉大学 教授)

この講義は、ATA研修 単元5 第3章 3節「学習場面での支援技術 ケーススタディ3」です。

講師は、日本福祉大学 教授 金森克浩 先生です。

この章のねらい



■ 学習目標

- ▶ 就労場面での支援技術についての知識を得る

■ 学習のゴール

- ▶ 様々な就労場面での支援技術について知識を得て、検討する力を付ける

2

この章のねらいについて説明します。

学習目標です。

就労場面での支援技術についての知識を得ることです。

学習のゴールです。

様々な就労場面での支援技術について知識を得て、検討する力をつけるようになるということです。

目次



1. はじめに
2. ケーススタディ
3. 学習のまとめ

1. はじめに



1. はじめに

- この章を学習するにあたってのポイント
 - ▶ 障害のある人が就労するにあたって、検討すべき課題と支援技術の関連を知る
- この章で学習することの要約
 - ▶ ケーススタディを通して支援機器活用について検討する力を付ける

4

この章を学習するにあたってのポイントです。

障害のある人が就労するにあたって検討すべき課題と支援技術の関連を知ることです。

この章で学習することの要約です。

ケーススタディを通して、支援機器活用について検討する力を付けることです。

目次



1. はじめに
2. ケーススタディ
3. 学習のまとめ

2. ケーススタディ

2. ケーススタディ



- 具体的な障害別に事例を想定して支援機器の活用について検討する

6

具体的な障害別に事例を想定して支援機器の活用について検討します

。



2. ケーススタディ

1. 視覚障害があるAさん
2. 聴覚障害のあるBさん
3. 肢体不自由のあるCさん
4. 知的障害のあるDさん
5. ADHDとASDのあるEさん
6. 病弱のFさん

7

以下の6つのケースについて検討しましょう。

2-1. 肢体不自由のある人の就労



【課題】

- 下肢や上肢に障害があると就労する上でどのようなことが困るだろうか？
- 考えられる困難について整理してみよう
(制限時間：10分間)

8

下肢や上肢に障害があると就労する上でどのようなことが困難があるでしょうか？

考えられる困難について整理してみましょう。

2-1. 肢体不自由のある人の就労



【課題】

- 下肢や上肢に障害があると就労する上でどのようなことが困るだろうか？
- 考えられる困難について整理してみよう
(制限時間：10分間)

9

(映像用)

2-1. 肢体不自由のある人の就労



【事例】

- 脳性まひのあるCさんは車いすを利用している。また、時間をかければパソコンのキーボードを押したりマウスを操作することもできるが、とても時間がかかる
- 企業に就労するためにどのような支援機器が考えられるか例を挙げて、利用に際して気をつけなければならない点を考えてみよう

10

脳性まひのあるCさんは車いすを利用しています。

また、時間をかければパソコンのキーボードを押したりマウスを操作することもできますが、とても時間がかかります。

企業に就労するためにどのような支援機器が考えられるか、例を挙げて利用に際して気をつけなければならない点を考えましょう。

2-1. 肢体不自由のある人の就労



【事例】

- 脳性まひのあるCさんは車いすを利用している。また、時間をかければパソコンのキーボードを押したりマウスを操作することもできるが、とても時間がかかる
- 企業に就労するためにどのような支援機器が考えられるか例を挙げて、利用に際して気をつけなければならない点を考えてみよう

11

(映像用)

2-1. 肢体不自由のある人の就労



- どのようなアセスメントと支援の方法があるか、インターネットなどを活用して調べてみよう
(制限時間：10分間)

12

どのようなアセスメントと支援の方法があるか考えてみましょう。
次にインターネットなどを活用してどのような支援機器やどのような方法があるかを調べてみましょう。

2-1. 肢体不自由のある人の就労



- どのようなアセスメントと支援の方法があるか、インターネットなどを活用して調べてみよう
(制限時間：10分間)

13

(映像用)

目次



1. はじめに
2. ケーススタディ
3. 学習のまとめ

3. 学習のまとめ

3. 学習のまとめ



- 本日の講義では就労場面での支援技術について学んだ
- 障害のある人の就労場面は様々あり、これからAIやIoTが普及することにより、労働場面は大きく変化するだろう
そのためにも社会の変化を見ながら支援を考える必要がある

15

本日の講義では就労場面での支援技術について学びました。
障害のある人の就労場面は様々であり、これからAIやIoTが普及することにより、労働場面は大きく変化するでしょう。
そのためにも社会の変化を見ながら支援を考える必要があります。

以上で終わります。

単元5 第3章4



場面別の支援技術

就労場面での支援技術 ケーススタディ4

金森克浩
(日本福祉大学 教授)

この講義は、ATA研修 単元5 第3章 4節「学習場面での支援技術 ケーススタディ4」です。

講師は、日本福祉大学 教授 金森克浩 先生です。

この章のねらい



■ 学習目標

- ▶ 就労場面での支援技術についての知識を得る

■ 学習のゴール

- ▶ 様々な就労場面での支援技術について知識を得て、検討する力を付ける

2

この章のねらいについて説明します。

学習目標です。

就労場面での支援技術についての知識を得ることです。

学習のゴールです。

様々な就労場面での支援技術について知識を得て、検討する力をつけるようになるということです。

目次



1. はじめに
2. ケーススタディ
3. 学習のまとめ

1. はじめに

1. はじめに



- この章を学習するにあたってのポイント
 - ▶ 障害のある人が就労するにあたって、検討すべき課題と支援技術の関連を知る
- この章で学習することの要約
 - ▶ ケーススタディを通して支援機器活用について検討する力を付ける

4

この章を学習するにあたってのポイントです。

障害のある人が就労するにあたって検討すべき課題と支援技術の関連を知ることです。

この章で学習することの要約です。

ケーススタディを通して、支援機器活用について検討する力を付けることです。

目次



1. はじめに
2. ケーススタディ
3. 学習のまとめ

2. ケーススタディ

2. ケーススタディ



- 具体的な障害別に事例を想定して支援機器の活用について検討する

6

具体的な障害別に事例を想定して支援機器の活用について検討します

。



2. ケーススタディ

1. 視覚障害があるAさん
2. 聴覚障害のあるBさん
3. 肢体不自由のあるCさん
4. 知的障害のあるDさん
5. ADHDとASDのあるEさん
6. 病弱のFさん

以下の6つのケースについて検討しましょう。

2-1. 知的障害のある人の就労



【課題】

- 知的障害がある人が就労する上でどのようなことが困るだろうか？
- 考えられる困難について整理してみよう
(制限時間：10分間)

8

知的障害がある人が就労する上でどのようなことが困るでしょうか。
考えられる困難について整理してみましょう。

2-1. 知的障害のある人の就労



【課題】

- 知的障害がある人が就労する上でどのようなことが困るだろうか？
- 考えられる困難について整理してみよう
(制限時間：10分間)

(映像用)

2-1. 知的障害のある人の就労



【事例】

- 軽度の知的障害があるDさんが一般企業に就職した
仕事を遂行する上でどのような支援機器があれば良いか考えてみよう

10

軽度の知的障害があるDさんが一般企業に就職しました。
仕事を遂行する上でどのような支援機器があれば良いか考えてみましょう。

2-1. 知的障害のある人の就労



【事例】

- 軽度の知的障害があるDさんが一般企業に就職した
仕事を遂行する上でどのような支援機器があれば良いか考えてみよう

11

(映像用)

2-1. 知的障害のある人の就労



- どのようなアセスメントと支援の方法があるか、インターネットなどを活用して調べてみよう
(制限時間：10分間)

12

どのようなアセスメントと支援の方法があるかを考えてみましょう。
次にインターネットなどを活用してそのような支援機器やどのような方法があるかを調べてみましょう。

2-1. 知的障害のある人の就労



- どのようなアセスメントと支援の方法があるか、インターネットなどを活用して調べてみよう
(制限時間：10分間)

13

(映像用)

目次



1. はじめに
2. ケーススタディ
3. 学習のまとめ

3. 学習のまとめ

3. 学習のまとめ



- 本日の講義では就労場面での支援技術について学んだ
- 障害のある人の就労場面は様々あり、これからAIやIoTが普及することにより、労働場面は大きく変化するだろう
そのためにも社会の変化を見ながら支援を考える必要がある

15

本日の講義では就労場面での支援技術について学びました。
障害のある人の就労場面は様々であり、これからAIやIoTが普及することにより、労働場面は大きく変化するでしょう。
そのためにも社会の変化を見ながら支援を考える必要があります。

以上で終わります。

単元5 第3章5



場面別の支援技術

就労場面での支援技術 ケーススタディ5

金森克浩
(日本福祉大学 教授)

この講義は、ATA研修 単元5 第3章 5節「学習場面での支援技術 ケーススタディ5」です。

講師は、日本福祉大学 教授 金森克浩 先生です。

この章のねらい



■ 学習目標

- ▶ 就労場面での支援技術についての知識を得る

■ 学習のゴール

- ▶ 様々な就労場面での支援技術について知識を得て、検討する力を付ける

2

この章のねらいについて説明します。

学習目標です。

就労場面での支援技術についての知識を得ることです。

学習のゴールです。

様々な就労場面での支援技術について知識を得て、検討する力を付けるようになるということです。

目次



1. はじめに
2. ケーススタディ
3. 学習のまとめ

1. はじめに



1. はじめに

- この章を学習するにあたってのポイント
 - ▶ 障害のある人が就労するにあたって、検討すべき課題と支援技術の関連を知る
- この章で学習することの要約
 - ▶ ケーススタディを通して支援機器活用について検討する力を付ける

4

この章を学習するにあたってのポイントです。

障害のある人が就労するにあたって検討すべき課題と支援技術の関連を知ることです。

この章で学習することの要約です。

ケーススタディを通して、支援機器活用について検討する力を付けることです。

目次



1. はじめに
2. ケーススタディ
3. 学習のまとめ

2. ケーススタディ

2. ケーススタディ



- 具体的な障害別に事例を想定して支援機器の活用について検討する

6

具体的な障害別に事例を想定して支援機器の活用について検討します

。



2. ケーススタディ

1. 視覚障害があるAさん
2. 聴覚障害のあるBさん
3. 肢体不自由のあるCさん
4. 知的障害のあるDさん
5. ADHDとASDのあるEさん
6. 病弱のFさん

7

以下の6つのケースについて検討しましょう。

2-1. 発達障害のある人の就労



【課題】

- 発達障害（LD、ADHD、ASD）がある人が就労する上でどのようなことが困るだろうか？
- 考えられる困難について整理してみよう（制限時間：10分間）

8

発達障害（LD、ADHD、ASD）がある人が就労する上でどのようなことが困るでしょうか？

考えられる困難について整理してみましょう。

2-1. 発達障害のある人の就労



【課題】

- 発達障害（LD、ADHD、ASD）がある人が就労する上でどのようなことが困るだろうか？
- 考えられる困難について整理してみよう（制限時間：10分間）

（映像用）

2-1. 発達障害のある人の就労



【事例】

- 市役所に勤めるEさんは仕事上のトラブルがあり、病院で検査を受けたところADHDとASDといわれた
今後仕事をする上で、どのような支援機器の利用が考えられるだろうか
想定される場面と支援機器、その使い方を上げてみよう

10

市役所に勤めるEさんは仕事上のトラブルがあり、病院で検査を受けたところADHDとASDといわれました。

今後仕事をする上で、どのような支援機器の利用が考えられるでしょうか。

想定される場面と支援機器、その使い方を考えてみましょう。

2-1. 発達障害のある人の就労



【事例】

- 市役所に勤めるEさんは仕事上のトラブルがあり、病院で検査を受けたところADHDとASDといわれた
今後仕事をする上で、どのような支援機器の利用が考えられるだろうか
想定される場面と支援機器、その使い方を上げてみよう

11

(映像用)

2-1. 発達障害のある人の就労



- どのようなアセスメントと支援の方法があるか、インターネットなどを活用して調べてみよう
(制限時間：10分間)

12

どのようなアセスメントと支援の方法があるか考えてみましょう。
次にインターネットなどを活用してどのような支援機器やどのような方法があるか調べてみましょう。

2-1. 発達障害のある人の就労



- どのようなアセスメントと支援の方法があるか、インターネットなどを活用して調べてみよう
(制限時間：10分間)

13

(映像用)

目次



1. はじめに
2. ケーススタディ
3. 学習のまとめ

3. 学習のまとめ

3. 学習のまとめ



- 本日の講義では就労場面での支援技術について学んだ
- 障害のある人の就労場面は様々あり、これからAIやIoTが普及することにより、労働場面は大きく変化するだろう
そのためにも社会の変化を見ながら支援を考える必要がある

15

本日の講義では就労場面での支援技術について学びました。
障害のある人の就労場面は様々であり、これからAIやIoTが普及することにより、労働場面は大きく変化するでしょう。
そのためにも社会の変化を見ながら支援を考える必要があります。

以上で終わります。

単元5 第3章6



場面別の支援技術

就労場面での支援技術 ケーススタディ6

金森克浩
(日本福祉大学 教授)

この講義は、ATA研修 単元5 第3章 6節「学習場面での支援技術 ケーススタディ6」です。

講師は、日本福祉大学 教授 金森克浩 先生です。

この章のねらい



■ 学習目標

- ▶ 就労場面での支援技術についての知識を得る

■ 学習のゴール

- ▶ 様々な就労場面での支援技術について知識を得て、検討する力を付ける

2

この章のねらいについて説明します。

学習目標です。

就労場面での支援技術についての知識を得ることです。

学習のゴールです。

様々な就労場面での支援技術について知識を得て、検討する力を付けるようになるということです。

目次



1. はじめに
2. ケーススタディ
3. 学習のまとめ

1. はじめに

1. はじめに



- この章を学習するにあたってのポイント
 - ▶ 障害のある人が就労するにあたって、検討すべき課題と支援技術の関連を知る
- この章で学習することの要約
 - ▶ ケーススタディを通して支援機器活用について検討する力を付ける

4

この章を学習するにあたってのポイントです。

障害のある人が就労するにあたって検討すべき課題と支援技術の関連を知ることです。

この章で学習することの要約です。

ケーススタディを通して、支援機器活用について検討する力を付けることです。

目次



1. はじめに
2. ケーススタディ
3. 学習のまとめ

2. ケーススタディ

2. ケーススタディ



- 具体的な障害別に事例を想定して支援機器の活用について検討する

6

具体的な障害別に事例を想定して支援機器の活用について検討します

。



2. ケーススタディ

1. 視覚障害があるAさん
2. 聴覚障害のあるBさん
3. 肢体不自由のあるCさん
4. 知的障害のあるDさん
5. ADHDとASDのあるEさん
6. 病弱のFさん

7

以下の6つのケースについて検討しましょう。

2-1. 病気や病弱の人の就労



【課題】

- 病気や病弱の人が就労する上でどのようなことが困るだろうか？
- 考えられる困難について整理してみよう
(制限時間：10分間)

8

病気や病弱の人が就労する上でどのようなことが困るでしょうか。
考えられる困難について整理してみましょう。

2-1. 病気や病弱の人の就労



【課題】

- 病気や病弱の人が就労する上でどのようなことが困るだろうか？
- 考えられる困難について整理してみよう
(制限時間：10分間)

9

(映像用)

2-1. 病気や病弱の人の就労



【事例】

- 入院生活が10年近い筋ジストロフィーのあるFさんから仕事をしたいと相談があったサポートをするに当たっては、どのような支援機器やどのような仕事が考えられるか調べてみよう

10

入院生活が10年近い筋ジストロフィーのあるFさんから仕事をしたいと相談がありました。

サポートをするに当たっては、どのような支援機器やどのような仕事が考えられるか調べてみましょう。

2-1. 病気や病弱の人の就労



【事例】

- 入院生活が10年近い筋ジストロフィーのあるFさんから仕事をしたいと相談があったサポートをするに当たっては、どのような支援機器やどのような仕事が考えられるか調べてみよう

11

(映像用)

2-1. 病気や病弱の人の就労



- どのようなアセスメントと支援の方法があるか、インターネットなどを活用して調べてみよう
(制限時間：10分間)

12

どのようなアセスメントと支援の方法があるかを考えてみましょう。
次にインターネットなどを活用してそのような支援機器やどのような方法があるか調べてみましょう。

2-1. 病気や病弱の人の就労



- どのようなアセスメントと支援の方法があるか、インターネットなどを活用して調べてみよう
(制限時間：10分間)

13

(映像用)

目次



1. はじめに
2. ケーススタディ
3. 学習のまとめ

3. 学習のまとめ

3. 学習のまとめ



- 本日の講義では就労場面での支援技術について学んだ
- 障害のある人の就労場面は様々あり、これからAIやIoTが普及することにより、労働場面は大きく変化するだろう
そのためにも社会の変化を見ながら支援を考える必要がある

15

本日の講義では就労場面での支援技術について学びました。

障害のある人の就労場面は様々であり、これからAIやIoTが普及することにより、労働場面は大きく変化するでしょう。

そのためにも社会の変化を見ながら支援を考える必要があります。

参考資料には有益な情報を得られるWebサイトを掲載したので、これらを参照しましょう。

以上で終わります。

単元5 第4章



場面別の支援技術

日常生活場面での支援技術

金森克浩
(日本福祉大学 教授)

この講義は、ATA研修 単元5 第4章「日常生活場面での支援技術」です。
講師は、日本福祉大学 教授 金森克浩 先生です。

この章のねらい



■ 学習目標

- ▶ 日常生活場面での支援技術についての知識を得る

■ 学習のゴール

- ▶ 障害のある人が日常生活を送る上で支援技術がどのような役割を果たすか説明できるようになる
- ▶ 様々な日常生活場面での支援技術について知識を得て、検討する力を付ける

2

この単元のなかでのこの章の位置付けです。

学習目標は、日常生活場面での支援技術についての知識を得ることです。

学習のゴールは、障害のある人が日常生活を送る上で、支援技術がどのような役割を果たすか説明できるようになること、

様々な日常生活場面での支援技術について知識を得て、検討する力を付けることです。

目次



1. はじめに
2. ADLからQOL
3. QOL向上と自立支援の3要素
4. 自助具とAAC
5. まとめ

1. はじめに

1. はじめに



- この章を学習するにあたってのポイント
 - ▶ 障害のある人が日常生活を送るに当たって、検討すべき課題と支援技術の関連を知る
- この章で学習することの要約
 - ▶ 支援を受けるという視点から、自立するという視点に変える上で支援技術の果たす役割を知る
 - ▶ 日常生活に役に立つ支援技術を学ぶ
 - ▶ ケーススタディを通して支援機器活用について検討する力を付ける

4

この章を学習するにあたってのポイントです。

障害のある人が日常生活を送るに当たって、検討すべき課題と支援技術の関連を知ることです。

支援を受けるという視点から、自立するという視点に変える上で支援技術の果たす役割を知ること、

日常生活に役に立つ支援技術を学ぶこと、ケーススタディを通して、支援機器活用について検討する力を付ける

という事がこの章の内容になります。

目次



1. はじめに
2. ADLからQOL
3. QOL向上と自立支援の3要素
4. 自助具とAAC
5. まとめ

2. ADLからQOL



2. ADLからQOL

- 障害観の変遷
- ノーマライゼーション運動
- ADL(Activities of Daily Living: 日常生活動作) の向上からQOL(Quality of Life: 生活の質) の向上に目を向けるようになってきた
- AAC (Augmentative and Alternative Communication: 拡大代替コミュニケーション) の重要性

6

障害のある人の支援技術を考える上で、障害観の変遷はとても重要な考え方です。

その一つにはノーマライゼーションの運動があります。

支援を受けるという立場から、自立する、生活をするということが考えられるようになってきました。

それまでの考えでいうと、ADL(Activities of Daily Living) 日常生活動作の向上から、生活の質を向上するという視点に代わるようになってきました。

また、AAC (Augmentative and Alternative Communication) 拡大代替コミュニケーション の役割も重要になってきます。

目次



1. はじめに
2. ADLからQOL
3. QOL向上と自立支援の3要素
4. 自助具とAAC
5. まとめ

3. QOL向上と自立支援の3要素

3. QOL向上と自立支援の3要素



■ 姿勢保持

- ▶ 姿勢保持装置（座位・立位・臥位保持）など自力で姿勢変換できない重度障害者の褥瘡の発生や変形を予防し、能動的活動を引き出す

■ 移動

- ▶ 歩行補助具、杖、ウォーカー（歩行器）、車いす、電動車いす

■ コミュニケーション

- ▶ スマートフォン、タブレット、パソコン、会話補助装置など障害者向けの情報伝達機器

8

QOL(Quality of Life) 生活の質を向上するということでは、自立支援の3要素として以下の3つが考えられます。

1つが姿勢の保持、2つ目が移動、3つ目がコミュニケーションです。

姿勢保持装置では、座位・立位・臥位保持など、自力で姿勢変換できない重度障害者の褥瘡の発生や変形を予防し、能動的活動を引き出すことが重要な役割になります。

また、移動では、歩行補助具、杖、ウォーカー（歩行器）、車いす、電動車椅子などがあります。

また、コミュニケーションではスマートフォンやタブレット、パソコン、会話補助装置など障害者向けの情報伝達装置などの役割があります。

目次



1. はじめに
2. ADLからQOL
3. QOL向上と自立支援の3要素
4. 自助具とAAC
5. まとめ

4. 自助具とAAC

4. 自助具とAAC



■ 自助具

- ▶ 様々な身の回りの動作がより便利に、より容易に自分で行えるよう工夫された道具

■ AAC

- ▶ 重度の表出障害のある人々の形態障害や能力障害を補償する臨床活動の領域。AACは多面的アプローチであるべきで、個人のすべてのコミュニケーション能力を活用するそれには、残存する発声、あるいは会話機能、ジェスチャー、サイン、エイドを使ったコミュニケーションが含まれる

10

生活の質を向上するという上では自助具とAACについて考える必要があります。

自助具とは様々な身の回りの動作がより便利に、より容易に自分で行えるよう工夫された道具のことです。

また、AACは重度の表出障害のある人々の形態障害や、能力障害を補償する臨床活動の領域を指します。

AACは多面的アプローチであるべきで、個人のすべてのコミュニケーション能力を活用する。

それには、残存する発声、あるいは会話機能、ジェスチャー、サイン、エイドを使ったコミュニケーションが含まれるといわれています。

4. 自助具とAAC



- 自助具を利用することで、それまで出来ないことができるようになる
しかし、すべてが自助具だけで解決しない
- 自立に向けて大切なことは

意思決定

なので、自らの意思を表出するためのAACの考え方も併せて必要となる

- ただし、これらは相反するものではなくお互いに補完または両方必要となる

11

自助具を利用することで、それまで出来ないことができるようになります。

しかし、すべてが自助具だけでは解決しません。

自立に向けて大切なことは、本人の意思決定の力をつけることです。

自らの意思を表出するためのAACの考え方は自助具を利用する上でも必要になります。

ただし、これら自助具とAACは相反するのではなく、お互いに補完または両方が必要になります。



4. 自助具とAAC

■ 衣類

- ▶ 自助具：着やすい服と補助具
- ▶ AAC：自分で着るものを選ぶ

■ 食事

- ▶ 自助具：使いやすい食具、介助ロボット
- ▶ AAC：何が食べたいか、好き嫌いの表出

■ 住居

- ▶ 自助具：ECS(環境制御装置)
- ▶ AAC：快適な生活のための環境調整

12

さて、自助具とAACについて、さまざまな場面でどういうことが考えられるかを整理しました。

衣類については、自助具では着やすい服や補助具を使うということが考えられます。

AACでは自分で何が着たいかどういう服を着ようか選ぶことが大切になります。

食事場面では、自助具では使いやすい食具、介助用ロボットが作られています。

AACの考え方では何が食べたいか、好き嫌いはいか、そういった表出をするということが求められています。

住居では、自助具では環境制御装置（ECS）などがあります。

AACでは、自分にとってどのような生活をすれば快適に過ごせるか環境を調整するための意思表示が求められます。

4. 自助具とAAC



■ 外出

- ▶ 自助具：車いす、白杖
- ▶ AAC：どこに行きたいか、誰と行きたいか

■ 趣味

- ▶ 自助具：障害者用のeスポーツ
- ▶ AAC：何に興味があるか、何がしたいか

13

外出では、自助具では車いすや白杖を使って外出しやすくするということが考えられます。

AACでは、どこに行きたいか、誰と行きたいかといったことを考えることが大切になります。

趣味では、自助具では障害者用のeスポーツなどが今、開発されています。

AACでは何に興味があるのか、何がしたいのか、自分の興味関心を広げていくという事が大切になります。

目次



1. はじめに
2. ADLからQOL
3. QOL向上と自立支援の3要素
4. 自助具とAAC
5. まとめ

5. まとめ



5. 学習のまとめ

- 本日の講義では日常生活場面での支援技術について学んだ
- 障害のある人の生活は様々であり、個々に検討することが必要である
しかし、基本となる自立と本人の意思決定を尊重することはとても重要
- 実際に当事者と接する機会を持ち、本人の意見を聞く機会を持とう
- 参考資料には有益な情報を得られるWebサイトを掲載したので、参照してみよう

15

本日の講義では日常生活場面での支援技術について学びました。障害のある人の生活は様々であり、個々に検討することが必要です。しかし、基本となる自立と本人の意思決定を尊重することはとても重要です。

実際に当事者と接する機会を持ち、本人の意見を聞く機会を持ちましょう。

参考資料には有益な情報を得られるWebサイトを掲載したので、これらを参照してみましょう。

以上で終わります。



6. 学習のまとめ

参考資料

▶ AT2ED

<http://at2ed.jp/>

▶ 東京都障害者IT地域支援センター

<https://www.tokyo-itcenter.com/>

▶ Kintaのブログ

<https://www.magicaltoybox.org/kinta/>



6. 学習のまとめ

参考資料

▶ 共用品推進機構

<http://www.kyoyohin.org/>

▶ テクノエイド協会

<http://www.techno-aids.or.jp/>

単元5 第4章I



場面別の支援技術

日常生活場面での支援技術 ケーススタディI

金森克浩
(日本福祉大学 教授)

この講義は、ATA研修 単元5 第4章 I節「日常生活場面での支援技術
ケーススタディI」です。

講師は、日本福祉大学 教授 金森克浩 先生です。

この章のねらい



■ 学習目標

- ▶ 日常生活場面での支援技術についての知識を得る

■ 学習のゴール

- ▶ 様々な日常生活場面での支援技術について知識を得て、検討する力を付ける

2

この単元のなかでのこの章の位置付けです。

学習目標は、日常生活場面での支援技術についての知識を得ることです。

学習のゴールは、様々な日常生活場面での支援技術について知識を得て、検討する力を付けることです。

目次



1. はじめに
2. ケーススタディ
3. まとめ

1. はじめに

1. はじめに



- この章を学習するにあたってのポイント
 - ▶ 障害のある人が日常生活を送るに当たって、検討すべき課題と支援技術の関連を知る
- この章で学習することの要約
 - ▶ ケーススタディを通して支援機器活用について検討する力を付ける

4

この章を学習するにあたってのポイントです。

障害のある人が日常生活を送るに当たって、検討すべき課題と支援技術の関連を知ることです。

ケーススタディを通して、支援機器活用について検討する力を付けるという事がこの章の内容になります。

目次



1. はじめに
2. ケーススタディ
3. まとめ

2. ケーススタディ



2. ケーススタディ

1. 外出でスマホを活用するAさん
2. パソコンを使いたいBさん
3. 時間の見通しが持てないCさん
4. eスポーツを楽しむDさん
5. 様々な機器を使いこなすEさん

ここからは、生活をする上で、どのようなことを考えていけば良いか、ケーススタディで検討していきたいと思います。

2-1. 視覚障害のある人の日常



【課題】

- 視覚障害のある人が日常生活を送る上で、どのようなことが困るだろうか？
- 考えられる困難について整理してみよう
(制限時間：10分間)

7

視覚障害のある人が日常生活を送る上で、どのようなことに困難があるのでしょうか？

考えられる困難について整理してみましょう。

2-1. 視覚障害のある人の日常



【課題】

- 視覚障害のある人が日常生活を送る上で、どのようなことが困るだろうか？
- 考えられる困難について整理してみよう
(制限時間：10分間)

(映像用)

2-1. 視覚障害のある人の日常



【事例】

- 全盲のAさんは外出に際して、スマホ(スマートフォン)を活用している
- 私たちが外出する際に簡単にできて、Aさんには難しいことはどのような事があり、スマホを利用する事で可能になることは、どのような事があるかを考えてみよう

9

全盲のAさんは外出に際して、スマホ(スマートフォン)を活用しています。

私たちが外出する際に簡単にできて、Aさんに難しいことはどのような事があり、

スマホを利用する事で可能になることは、どのような事があるかを考えてみましょう。

2-1. 視覚障害のある人の日常



【事例】

- 全盲のAさんは外出に際して、スマホ(スマートフォン)を活用している
- 私たちが外出する際に簡単にできて、Aさんには難しいことはどのような事があり、スマホを利用する事で可能になることはどのような事があるか考えてみよう

10

(映像用)

2-1. 視覚障害のある人の日常



- どのような支援の方法があるか、インターネットなどを活用して調べてみよう
(制限時間：10分間)

11

私たちが外出する際に簡単にできて、Aさんに難しいことはどのような事があり、スマホを利用する事で可能になることは、どのような事があるか考えてみましょう。

インターネットなどを活用して調べてみましょう。

2-1. 視覚障害のある人の日常



- どのような支援の方法があるか、インターネットなどを活用して調べてみよう
(制限時間：10分間)

(映像用)

目次



1. はじめに
2. ケーススタディ
3. まとめ

3. まとめ



3. 学習のまとめ

- 本日の講義では日常生活場面での支援技術について学んだ
- 障害のある人の生活は様々であり、個々に検討することが必要である
しかし、基本となる自立と本人の意思決定を尊重することはとても重要だ
- 実際に当事者と接する機会を持ち、本人の意見を聞く機会を持とう

14

本日の講義では日常生活場面での支援技術について学びました。障害のある人の生活は様々であり、個々に検討することが必要です。しかし、基本となる自立と本人の意思決定を尊重することはとても重要です。実際に当事者と接する機会を持ち、本人の意見を聞く機会を持ちましょう。

以上で、終わります。

単元5 第4章2



場面別の支援技術

日常生活場面での支援技術 ケーススタディ2

金森克浩
(日本福祉大学 教授)

この講義は、ATA研修 単元5 第4章 2節「日常生活場面での支援技術
ケーススタディ2」です。

講師は、日本福祉大学 教授 金森克浩 先生です。

この章のねらい



■ 学習目標

- ▶ 日常生活場面での支援技術についての知識を得る

■ 学習のゴール

- ▶ 様々な日常生活場面での支援技術について知識を得て、検討する力を付ける

2

この単元のなかでのこの章の位置付けです。

学習目標は、日常生活場面での支援技術についての知識を得ることです。

学習のゴールは、様々な日常生活場面での支援技術について知識を得て、検討する力を付けることです。

目次



1. はじめに
2. ケーススタディ
3. まとめ

1. はじめに

1. はじめに



- この章を学習するにあたってのポイント
 - ▶ 障害のある人が日常生活を送るに当たって、検討すべき課題と支援技術の関連を知る
- この章で学習することの要約
 - ▶ ケーススタディを通して支援機器活用について検討する力を付ける

4

この章を学習するにあたってのポイントです。

障害のある人が日常生活を送るに当たって、検討すべき課題と支援技術の関連を知ることです。

ケーススタディを通して、支援機器活用について検討する力を付けるという事がこの章の内容になります。

目次



1. はじめに
2. ケーススタディ
3. まとめ

2. ケーススタディ

2. ケーススタディ



1. 外出でスマホを活用するAさん
2. パソコンを使いたいBさん
3. 時間の見通しが持てないCさん
4. eスポーツを楽しむDさん
5. 様々な機器を使いこなすEさん

ここからは、生活をする上で、どのようなことを考えていけば良いか、ケーススタディで検討していきたいと思います。

2-1. 聴覚障害のある人の日常



【課題】

- 聴覚障害のある人が日常生活を送る上で、どのようなことが困るだろうか？
- 考えられる困難について整理してみよう
(制限時間：10分間)

7

聴覚障害のある人が日常生活を送る上で、どのようなことが困るでしょうか？

考えられる困難について整理してみましょう。

2-1. 聴覚障害のある人の日常



【課題】

- 聴覚障害のある人が日常生活を送る上で、どのようなことが困るだろうか？
- 考えられる困難について整理してみよう
(制限時間：10分間)

(映像用)

2-1. 聴覚障害のある人の日常



【事例】

- 聴覚障害のあるBさんはパソコンを使いこなしてさまざまな事に挑戦したいと考えている
- 私たちがパソコンを使う上で困難を感じずに利用できることで、Bさんには困難となることはどんな事があるだろうか
パソコンのアクセシビリティ機能を使うことでどのような支援があるか考えてみよう

9

聴覚障害のあるBさんはパソコンを使いこなして、さまざまな事に挑戦したいと考えています。

私たちがパソコンを使う上で困難を感じずに利用できることで、Bさんにはどんな事が困るでしょうか。

パソコンのアクセシビリティ機能を使うことでどのような支援があるか考えてみましょう。

2-1. 聴覚障害のある人の日常



- どのようなアセスメントと支援の方法があるか考えてみよう(制限時間：10分間)

10

どのようなアセスメントと支援の方法があるか考えてみましょう。

2-1. 聴覚障害のある人の日常



- どのようなアセスメントと支援の方法があるか考えてみよう(制限時間：10分間)

11

(映像用)

2-1. 聴覚障害のある人の日常



- どのようなアセスメントと支援の方法があるか、インターネットなどを活用して調べてみよう
(制限時間：10分間)

12

どのようなアセスメントと支援の方法があるか考えてみましょう。
インターネットなどを活用して調べてみましょう。

2-1. 聴覚障害のある人の日常



- どのようなアセスメントと支援の方法があるか、インターネットなどを活用して調べてみよう
(制限時間：10分間)

13

(映像用)

目次



1. はじめに
2. ケーススタディ
3. まとめ

3. まとめ

3. 学習のまとめ



- 本日の講義では日常生活場面での支援技術について学んだ
- 障害のある人の生活は様々であり、個々に検討することが必要である
しかし、基本となる自立と本人の意思決定を尊重することはとても重要だ
- 実際に当事者と接する機会を持ち、本人の意見を聞く機会を持とう

15

本日の講義では日常生活場面での支援技術について学びました。障害のある人の生活は様々であり、個々に検討することが必要です。しかし、基本となる自立と本人の意思決定を尊重することはとても重要です。実際に当事者と接する機会を持ち、本人の意見を聞く機会を持ちましょう。

以上で終わります。

単元5 第4章3



場面別の支援技術

日常生活場面での支援技術 ケーススタディ3

金森克浩
(日本福祉大学 教授)

この講義は、ATA研修 単元5 第4章 3節「日常生活場面での支援技術
ケーススタディ3」です。

講師は、日本福祉大学 教授 金森克浩 先生です。

この章のねらい



■ 学習目標

- ▶ 日常生活場面での支援技術についての知識を得る

■ 学習のゴール

- ▶ 様々な日常生活場面での支援技術について知識を得て、検討する力を付ける

2

この単元のなかでのこの章の位置付けです。

学習目標は、日常生活場面での支援技術についての知識を得ることです。

学習のゴールは、様々な日常生活場面での支援技術について知識を得て、検討する力を付けることです。

目次



1. はじめに
2. ケーススタディ
3. まとめ

1. はじめに

1. はじめに



- この章を学習するにあたってのポイント
 - ▶ 障害のある人が日常生活を送るに当たって、検討すべき課題と支援技術の関連を知る
- この章で学習することの要約
 - ▶ ケーススタディを通して支援機器活用について検討する力を付ける

4

この章を学習するにあたってのポイントです。

障害のある人が日常生活を送るに当たって、検討すべき課題と支援技術の関連を知ることです。

ケーススタディを通して、支援機器活用について検討する力を付けるという事がこの章の内容になります。

目次



1. はじめに
2. ケーススタディ
3. まとめ

2. ケーススタディ



2. ケーススタディ

1. 外出でスマホを活用するAさん
2. パソコンを使いたいBさん
3. 時間の見通しが持てないCさん
4. eスポーツを楽しむDさん
5. 様々な機器を使いこなすEさん

ここからは、生活をする上で、どのようなことを考えていけば良いか、ケーススタディで検討していきたいと思います。

2-1. 知的障害のある人の日常



【課題】

- 知的障害のある人が日常生活を送る上で、どのようなことが困るだろうか？
- 考えられる困難について整理してみよう
(制限時間：10分間)

7

知的障害のある人が日常生活を送る上で、どのようなことが困るでしょうか？

考えられる困難について整理してみましょう。

2-1. 知的障害のある人の日常



【課題】

- 知的障害のある人が日常生活を送る上で、どのようなことが困るだろうか？
- 考えられる困難について整理してみよう
(制限時間：10分間)

(映像用)

2-1. 知的障害のある人の日常



【事例】

- Cさんは自閉症があり、スケジュール管理や時間の見通しを持つことが苦手だ
- どのような支援機器を使うことでスケジュール管理や時間の見通しを持つことの苦手さを補うことができるだろう

9

Cさんは自閉症があり、スケジュール管理や時間の見通しを持つことに苦手さや困難があります。

どのような支援機器を使うことでスケジュール管理や時間の見通しを持つことの苦手さを補うことができるでしょうか。

2-1. 知的障害のある人の日常



- どのようなアセスメントと支援の方法があるか考えてみよう(制限時間：10分間)

10

どのようなアセスメントと支援の方法があるか考えてみましょう。

2-1. 知的障害のある人の日常



- どのようなアセスメントと支援の方法があるか考えてみよう(制限時間：10分間)

11

(映像用)

2-1. 知的障害のある人の日常



- どのようなアセスメントと支援の方法があるか、インターネットなどを活用して調べてみよう
(制限時間：10分間)

12

どのようなアセスメントと支援の方法があるか考えてみましょう。
インターネットなどを活用して調べてみましょう。

2-1. 知的障害のある人の日常



- どのようなアセスメントと支援の方法があるか、インターネットなどを活用して調べてみよう
(制限時間：10分間)

(映像用)

目次



1. はじめに
2. ケーススタディ
3. まとめ

3. まとめ

3. 学習のまとめ



- 本日の講義では日常生活場面での支援技術について学んだ
- 障害のある人の生活は様々であり、個々に検討することが必要である
しかし、基本となる自立と本人の意思決定を尊重することはとても重要だ
- 実際に当事者と接する機会を持ち、本人の意見を聞く機会を持とう

15

この講義では日常生活場面での支援技術について学びました。
障害のある人の生活は様々であり、個々に検討することが必要です。
しかし、基本となる自立と本人の意思決定を尊重することはとても重要
です。
実際に当事者と接する機会を持ち、本人の意見を聞く機会を持ちま
しょう。

以上で終わります。

単元5 第4章4



場面別の支援技術

日常生活場面での支援技術 ケーススタディ4

金森克浩
(日本福祉大学 教授)

この講義は、ATA研修 単元5 第4章 4節「日常生活場面での支援技術
ケーススタディ4」です。

講師は、日本福祉大学 教授 金森克浩 先生です。

この章のねらい



■ 学習目標

- ▶ 日常生活場面での支援技術についての知識を得る

■ 学習のゴール

- ▶ 様々な日常生活場面での支援技術について知識を得て、検討する力を付ける

2

この単元のなかでのこの章の位置付けです。

学習目標は、日常生活場面での支援技術についての知識を得ることです。

学習のゴールは、様々な日常生活場面での支援技術について知識を得て、検討する力を付けることです。

目次



1. はじめに
2. ケーススタディ
3. まとめ

1. はじめに

1. はじめに



- この章を学習するにあたってのポイント
 - ▶ 障害のある人が日常生活を送るに当たって、検討すべき課題と支援技術の関連を知る
- この章で学習することの要約
 - ▶ ケーススタディを通して支援機器活用について検討する力を付ける

4

この章を学習するにあたってのポイントです。

障害のある人が日常生活を送るに当たって、検討すべき課題と支援技術の関連を知ることです。

ケーススタディを通して、支援機器活用について検討する力を付けるという事がこの章の内容になります。

目次



1. はじめに
2. ケーススタディ
3. まとめ

2. ケーススタディ

2. ケーススタディ



1. 外出でスマホを活用するAさん
2. パソコンを使いたいBさん
3. 時間の見通しが持てないCさん
4. eスポーツを楽しむDさん
5. 様々な機器を使いこなすEさん

6

ここからは、生活をする上で、どのようなことを考えていけば良いか、ケーススタディで検討していきたいと思います。

2-1. 肢体不自由のある人の日常



【課題】

- 上肢や下肢にまひのある人が日常生活を送る上で、どのようなことが困るだろうか？
- 考えられる困難について整理してみよう
(制限時間：10分間)

7

上肢や下肢にまひのある人が日常生活を送る上で、どのようなことが困るでしょうか？

考えられる困難について整理してみましょう。

2-1. 肢体不自由のある人の日常



【課題】

- 上肢や下肢にまひのある人が日常生活を送る上で、どのようなことが困るだろうか？
- 考えられる困難について整理してみよう
(制限時間：10分間)

(映像用)

2-1. 肢体不自由のある人の日常



【事例】

- Dさんは脳性まひの小学4年生
不随意的動きはあるが、鉛筆を持って字を書くことはできる
- 小学校の特別支援学級に在籍しているので、他の子どもたちと一緒にゲームがしたいと思っている
どのような支援をすれば、ほかの子どもたちと一緒に遊ぶことができるだろうか？

9

Dさんは脳性まひの小学4年生です。不随意的動きはありますが、鉛筆を持って字を書くことはできます。

小学校の特別支援学級に在籍しているので、他の子どもたちと一緒にゲームがしたいと思っています。

どのような支援をすれば、ほかの子どもたちと一緒に遊ぶことができるでしょうか？

2-1. 肢体不自由のある人の日常



- どのようなアセスメントと支援の方法があるか考えてみよう(制限時間：10分間)

10

どのようなアセスメントと支援の方法があるか考えてみましょう。

2-1. 肢体不自由のある人の日常



- どのようなアセスメントと支援の方法があるか考えてみよう(制限時間：10分間)

11

(映像用)

2-1. 肢体不自由のある人の日常



- どのようなアセスメントと支援の方法があるか、インターネットなどを活用して調べてみよう
(制限時間：10分間)

12

どのようなアセスメントと支援の方法があるか考えてみましょう。
インターネットなどを活用して調べてみましょう。

2-1. 肢体不自由のある人の日常



- どのようなアセスメントと支援の方法があるか、インターネットなどを活用して調べてみよう
(制限時間：10分間)

13

(映像用)

目次



1. はじめに
2. ケーススタディ
3. まとめ

3. まとめ

3. 学習のまとめ



- 本日の講義では日常生活場面での支援技術について学んだ
- 障害のある人の生活は様々であり、個々に検討することが必要である
しかし、基本となる自立と本人の意思決定を尊重することはとても重要だ
- 実際に当事者と接する機会を持ち、本人の意見を聞く機会を持とう

15

本日の講義では日常生活場面での支援技術について学びました。障害のある人の生活は様々であり、個々に検討することが必要です。しかし、基本となる自立と本人の意思決定を尊重することはとても重要です。実際に当事者と接する機会を持ち、本人の意見を聞く機会を持ちましょう。

以上で終わります。

単元5 第4章5



場面別の支援技術

日常生活場面での支援技術 ケーススタディ5

金森克浩
(日本福祉大学 教授)

この講義は、ATA研修 単元5 第4章 5節「日常生活場面での支援技術
ケーススタディ5」です。

講師は、日本福祉大学 教授 金森克浩 先生です。

この章のねらい



■ 学習目標

- ▶ 日常生活場面での支援技術についての知識を得る

■ 学習のゴール

- ▶ 様々な日常生活場面での支援技術について知識を得て、検討する力を付ける

2

この単元のなかでのこの章の位置付けです。

学習目標は、日常生活場面での支援技術についての知識を得ることです。

学習のゴールは、様々な日常生活場面での支援技術について知識を得て、検討する力を付けることです。

目次



1. はじめに
2. ケーススタディ
3. まとめ

1. はじめに

1. はじめに



- この章を学習するにあたってのポイント
 - ▶ 障害のある人が日常生活を送るに当たって、検討すべき課題と支援技術の関連を知る
- この章で学習することの要約
 - ▶ ケーススタディを通して支援機器活用について検討する力を付ける

4

この章は学習するにあたってのポイントです。

障害のある人が日常生活を送るに当たって、検討すべき課題と支援技術の関連を知ることです。

ケーススタディを通して、支援機器活用について検討する力を付けるという事がこの章の内容になります。

目次



1. はじめに
2. ケーススタディ
3. まとめ

2. ケーススタディ



2. ケーススタディ

1. 外出でスマホを活用するAさん
2. パソコンを使いたいBさん
3. 時間の見通しが持てないCさん
4. eスポーツを楽しむDさん
5. 様々な機器を使いこなすEさん

ここからは、生活をする上で、どのようなことを考えていけば良いか、ケーススタディで検討していきたいと思います。

2-1. 障害の重い人の日常



【課題】

- ALSやSMAなど障害の重い人が日常生活を送る上で、どのようなことが困るだろうか？
- 考えられる困難について整理してみよう
(制限時間：10分間)

7

ALSやSMAなど障害の重い人が日常生活を送る上で、どのようなことが困るでしょうか？

考えられる困難について整理してみましょう。

2-1. 障害の重い人の日常



【課題】

- ALSやSMAなど障害の重い人が日常生活を送る上で、どのようなことが困るだろうか？
- 考えられる困難について整理してみよう
(制限時間：10分間)

(映像用)

2-1. 障害の重い人の日常



【事例】

- SMA（脊髄性筋萎縮症）のあるEさんは気管切開をしていて、日常的に医療的なケアが必要
- しかし、様々な工夫により外出や自宅でもネットワークを通じて沢山の人と交流している
- Eさんと同じような障害のある人が、支援機器を活用する上で気をつけなければならない点は何か考えよう

9

SMA（脊髄性筋萎縮症）のあるEさんは気管切開をして、日常的に医療的なケアが必要です。

しかし、様々な工夫により外出や自宅でもネットワークを活用して、沢山の人と交流しています。

Eさんと同じような障害のある人が、支援機器を活用する上で気をつけなければならない点は何かを考えてみましょう。

2-1. 障害の重い人の日常



- どのような支援の方法があるか考えてみよう(制限時間：10分間)

10

どのような支援の方法があるか考えてみましょう。

2-1. 障害の重い人の日常



- どのような支援の方法があるか考えてみよう(制限時間：10分間)

11

(映像用)

2-1. 障害の重い人の日常



- どのような支援の方法があるか、インターネットなどを活用して調べてみよう
(制限時間：10分間)

12

どのような支援の方法があるか考えてみましょう。
インターネットなどを活用して調べてみましょう。

2-1. 障害の重い人の日常



- どのような支援の方法があるか、インターネットなどを活用して調べてみよう
(制限時間：10分間)

(映像用)

目次



1. はじめに
2. ケーススタディ
3. まとめ

3. まとめ

3. 学習のまとめ



- 本日の講義では日常生活場面での支援技術について学んだ
- 障害のある人の生活は様々であり、個々に検討することが必要である
しかし、基本となる自立と本人の意思決定を尊重することはとても重要だ
- 実際に当事者と接する機会を持ち、本人の意見を聞く機会を持とう

15

この講義では日常生活場面での支援技術について学びました。
障害のある人の生活は様々であり、個々に検討することが必要です。
しかし、基本となる自立と本人の意思決定を尊重することはとても重要
です。
実際に当事者と接する機会を持ち、本人の意見を聞く機会を持ちま
しょう。

以上で終わります。

単元5 第5章



場面別の支援技術

この単元のまとめ(振り返り、参考文献)

金森克浩
(日本福祉大学 教授)

この講義は、ATA研修 単元5 第5章「場面別の支援技術 この単元のまとめ」です。

講師は、日本福祉大学 教授 金森克浩 先生です。

単元5「場面別の支援技術」の構成



場面別の支援技術

- 5-2. 学習場面での支援技術
- 5-3. 就労場面での支援技術
- 5-4. 日常生活場面での支援技術



2

単元5「場面別の支援技術」は、以下の3章で構成されていました。

- 5-2. 学習場面での支援技術
- 5-3. 就労場面での支援技術
- 5-4. 日常生活場面での支援技術

です。

それぞれの章で学んだことを確認しましょう。

5-2. 学習場面での支援技術



■ 学習目標

- ▶ 学習場面での支援技術についての知識を得る

■ 学習のゴール

- ▶ 合理的配慮としての支援技術の活用について説明できるようになる
- ▶ 様々な学習場面での支援技術について知識を得て、検討する力を付ける

3

5-2. 学習場面での支援技術 の学習目標は、
学習場面での支援技術についての知識を得ることでした。

学習のゴールは、
合理的配慮としての支援技術の活用について説明できるようになること、
様々な学習場面での支援技術について知識を得て、検討する力を付けること、
でした。

5-2. 学習場面での支援技術



- この章を学習するにあたってのポイント
 - ▶ 障害のある幼児児童生徒学生が学習するにあたって、検討すべき課題と支援技術の関連を知る
- この章で学習すること
 - ▶ 特別支援教育における支援技術の位置づけの理解と合理的配慮と基礎的環境整備について解説する
 - ▶ 学びの場面別でどのような事が行われているかを学び、検討する力を付ける

4

5-2. 学習場面での支援技術 を学習するにあたってのポイントは、障害のある幼児児童生徒学生が学習するにあたって、検討すべき課題と支援技術の関連を知ることでした。

5-2. 学習場面での支援技術 で学習することは、特別支援教育における支援技術の位置づけの理解と合理的配慮と基礎的環境整備について解説すること、学びの場面別でどのような事が行われているかを学び、検討する力を付けること、でした。

5-2. 学習場面での支援技術



- 本講義では学習場面での支援技術について学んだ
- 具体的な指導場面をイメージしながら学ぶためには、積極的に学校現場に関わっていくことが大切になる
- 参考資料には有益な情報を得られるWebサイトを掲載したので、これらを参照する

5

本講義のサマライズとふりかえりです。

本講義では学習場面での支援技術について学びました。

具体的な指導場面をイメージしながら学ぶためには、積極的に学校現場に関わっていくことが大切になります。

参考資料には有益な情報を得られるWebサイトを掲載したので、これらを参照しましょう。

5-2. 学習場面での支援技術



参考資料

- ▶ 文部科学省 特別支援教育
https://www.mext.go.jp/a_menu/01_m.htm
- ▶ 国立特別支援教育総合研究所インクルDB
<http://inclusive.nise.go.jp/>
- ▶ 聴覚障害学生サポートブック
<http://www.pepnet-j.org/web/modules/tinydl/index.php?id=371&tmid=466>

6

参考資料が掲載されているURLです。

文部科学省 特別支援教育
国立特別支援教育総合研究所インクルDB
聴覚障害学生サポートブック

です。

5-3. 就労場面での支援技術



■ 学習目標

▶ 就労場面での支援技術についての知識を得る

■ 学習のゴール

▶ 障害のある人が就労する上で支援技術がどのような役割を果たすか説明できるようになる

▶ 様々な就労場面での支援技術について知識を得て、検討する力を付ける

7

5-3. 就労場面での支援技術 の学習目標は、
就労場面での支援技術についての知識を得ることでした。

学習のゴールは、
障害のある人が就労する上で支援技術がどのような役割を果たすか説明できるようになること、
様々な就労場面での支援技術について知識を得て、検討する力を付けること、
でした。

5-3. 就労場面での支援技術



- この章を学習するにあたってのポイント
 - ▶ 障害のある人が就労するに当たって、検討すべき課題と支援技術の関連を知る
- この章で学習すること
 - ▶ 障害のある人の就労とそれに関する情報を把握する
 - ▶ 就労支援機器についての知識を得る
 - ▶ ケーススタディを通して支援機器活用について検討する力を付ける

8

5-3. 就労場面での支援技術 を学習するにあたってのポイントは、障害のある幼児児童生徒学生が学習するに当たって、検討すべき課題と支援技術の関連を知ることでした。

5-3. 就労場面での支援技術で学習することは、特別支援教育における支援技術の位置づけの理解と合理的配慮と基礎的環境整備について解説すること、学びの場面別でどのような事が行われているかを学び、検討する力を付けること、でした。

5-3. 就労場面での支援技術



- 本講義では就労場面での支援技術について学んだ
- 障害のある人の就労場面は様々あり、これからAIやIoTが普及することにより、労働場面は大きく変化するだろう
そのためにも社会の変化を見ながら支援を考える必要がある
- 参考資料には有益な情報を得られるWebサイトを掲載したので、これらを参照してみよう

9

本講義のサマライズとふりかえりです。

本講義では、本講義では就労場面での支援技術について学びました。

障害のある人の就労場面は様々あり、これからAIやIoTが普及することにより、労働場面は大きく変化するでしょう。

そのためにも社会の変化を見ながら支援を考える必要があります。

参考資料には有益な情報を得られるWebサイトを掲載したので、これらを参照しましょう。

5-3. 就労場面での支援技術



参考資料

▶ 厚生労働省 障害者福祉

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/hukushi_kaigo/shougaiushahukushi/index.html

▶ 独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構

<http://www.jeed.or.jp/>

▶ 就労支援機器

<https://www.kiki.jeed.or.jp/>

10

参考資料が掲載されているURLです。

厚生労働省 障害者福祉

独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構

就労支援機器

5-3. 就労場面での支援技術



参考資料

▶ LITALICO仕事ナビ

<https://snabi.jp/>

▶ 「超短時間労働」で障害者雇用を多様化する

https://www.u-tokyo.ac.jp/focus/ja/features/z0508_0009.html

11

LITALICO仕事ナビ

「超短時間労働」で障害者雇用を多様化する

です。

5-4. 日常生活場面での支援技術



■ 学習目標

- ▶ 日常生活場面での支援技術についての知識を得る

■ 学習のゴール

- ▶ 障害のある人が日常生活を送る上で支援技術がどのような役割を果たすか説明できるようになる
- ▶ 様々な日常生活場面での支援技術について知識を得て、検討する力を付ける

12

5-4. 日常生活場面での支援技術 の学習目標は、
日常生活場面での支援技術についての知識を得ることでした。

学習のゴールは、
障害のある人が日常生活を送る上で支援技術がどのような役割を果たすか説明できるようになること、
様々な日常生活場面での支援技術について知識を得て、検討する力を付けること、
でした。

5-4. 日常生活場面での支援技術



- この章を学習するにあたってのポイント
 - ▶ 障害のある人が日常生活を送るに当たって、検討すべき課題と支援技術の関連を知る
- この章で学習すること
 - ▶ 支援を受けるという視点から、自立するという視点に変える上で支援技術の果たす役割を知る
 - ▶ 日常生活に役に立つ支援技術を学ぶ
 - ▶ ケーススタディを通して支援機器活用について検討する力を付ける

13

5-4. 日常生活場面での支援技術 を学習するにあたってのポイントは、
障害のある人が日常生活を送るに当たって、検討すべき課題と支援技術の関連を知ることでした。

5-4. 日常生活場面での支援技術 で学習することは、
支援を受けるという視点から、自立するという視点に変える上で支援技術の果たす役割を知ること、
日常生活に役に立つ支援技術を学ぶこと、
ケーススタディを通して支援機器活用について検討する力を付けること、
でした。

5-4. 日常生活場面での支援技術



- 本講義では日常生活場面での支援技術について学んだ
- 障害のある人の生活は様々であり、個々に検討することが必要である
しかし、基本となる自立と本人の意思決定を尊重することはとても重要だ
- 実際に当事者と接する機会を持ち、本人の意見を聞く機会を持とう
- 参考資料には有益な情報を得られるWebサイトを掲載したので、参照してみよう

14

本講義のサマライズとふりかえりです。

本講義では日常生活場面での支援技術について学びました。

障害のある人の生活は様々あり、個々に検討することが必要です。

しかし、基本となる自立と本人の意思決定を尊重することはとても重要です。

実際に当事者と接する機会を持ち、本人の意見を聞く機会を持ちましょう。

参考資料には有益な情報を得られるWebサイトを掲載したので、これらを参照してみましょう。

5-4. 日常生活場面での支援技術



参考資料

▶ AT2ED

<http://at2ed.jp/>

▶ 東京都障害者IT地域支援センター

<https://www.tokyo-itcenter.com/>

▶ Kintaのブログ

<https://www.magicaltoybox.org/kinta/>

15

参考資料が掲載されているURLです。

AT2ED

東京都障害者IT地域支援センター

Kintaのブログ

5-4. 日常生活場面での支援技術



参考資料

▶ 共用品推進機構

<http://www.kyoyohin.org/>

▶ テクノエイド協会

<http://www.techno-aids.or.jp/>

16

共用品推進機構

テクノエイド協会

以上です。

単元5の構成



場面別の支援技術

- 5-2. 学習場面での支援技術
- 5-3. 就労場面での支援技術
- 5-4. 日常生活場面での支援技術



以上が「場面別の支援技術」についての学習確認となります。

次に単元末の理解度テストに進んでください。

もし不明な個所がある場合は、テストを受ける前に、再学習をしましょう。

以上で単元5を終わります。